

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 千曲市・坂城町

自治体名：長野県 千曲市・坂城町

担当課名：千曲市教育委員会教育総務課

電話番号：026-273-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	千曲市119.79 km ² 坂城町53.64km ²
人口	千曲市 57,525人 坂城町 13,864人
公立中学校数	千曲市立4 校 坂城町立1 校
公立中学校生徒数	1,694 人
部活動数	54 部活 ※文化系11
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

中学校部活動は、長年「学校教育の一環」として位置づけられてきた。また日本のスポーツ・文化芸術活動の発展は、学校が担ってきた背景がある。しかし、以下のことが問題となってきた。
1.少子化により学校単位の部活動の存続が困難になってきている。

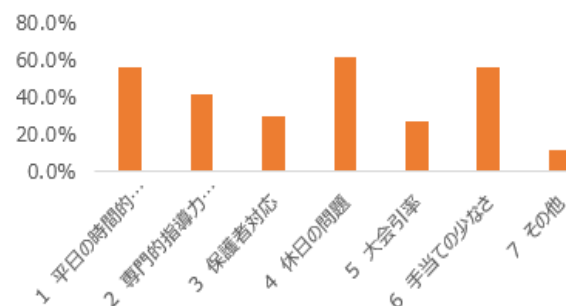
・単独チームが編成できない。・部が廃止になり、やりたいことが学校でできない。

※令和6年度合同でチーム編成をしている競技

・軟式野球 サッカー バスケットボール バレーボール ハンドボール 剣道

・合唱は2つの中学校合同で活動

顧問としての負担・不満



令和2年部活動アンケートより
(R2.10月更埴地区部活動顧問98名回答)

2.教職員の負担が大きい。献身的努力に頼る時代ではない。 ※下アンケート参照

・平日の勤務時間外の指導の負担・休日の練習、練習試合、大会等に参加することの負担
・未経験の種目を指導する負担

3.「もっとやりたい」「専門的な指導をして欲しい」「もっとゆるく仲間と楽しみたい」等、

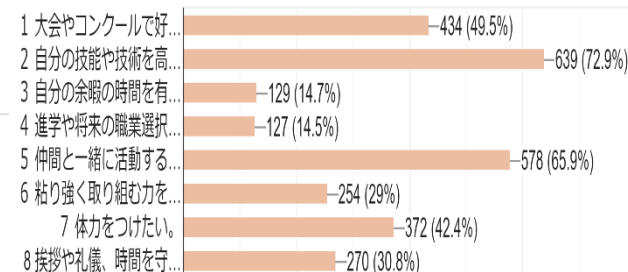
生徒のニーズが多様化してきている。※アンケート参照

■**たくさんの課題や矛盾がある中で、学校だけではもはや解決できない時代が来ている**

☞**持続可能なスポーツ・文化芸術活動を地域で構築していく必要がある**

4 「クラブ」ではどんなことをめざして活動をしたいですか。(複数回答可)

877件の回答

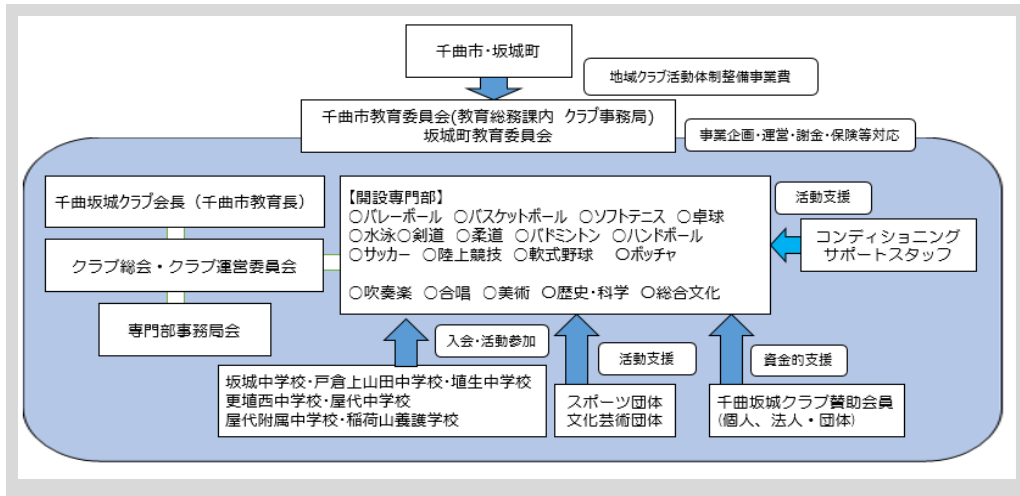


令和5年部生徒アンケートより
(R5.9月更埴地区生徒877名回答)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

- 千曲市教育委員会（教育総務課）
 - ・「地域クラブ活動体制整備事業」の企画、運営、予算管理
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - 教育総務課内→クラブ事務局を設置
 - ・謝金等の事務処理
 - ・賛助会員受付
 - ・クラブだよりの発行
 - ・指導者研修会の企画推進
 - ・運営委員会、専門部事務局会の企画実施
 - 坂城町教育委員会（教育文化課）
 - 同上 千曲市教育委員会と連携して推進
- ※予算については中学校生徒比で算出する。
- 首長部局
 - ・財政課 予算措置等
 - ・ふるさと振興課 ふるさと納税の検討

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月 各専門部活動開始
クラブだよりの発行
- 令和6年5月 第1回クラブ運営委員会の開催
オンラインによる指導者研修会開催(年6講座)
クラブだよりの発行 部活動連携会議の開催
- 令和6年6月 フィットネス体験教室開催(屋代中)
クラブだよりの発行
- 令和6年7月 フィットネス体験教室開催(西中埴生中戸上中)
クラブだよりの発行
太極拳教室の開催
- 令和6年8月 第2回クラブ運営委員会の開催
クラブだよりの発行 部活動連携会議の開催
- 令和6年9月 専門部事務局会議の開催
クラブだよりの発行
- 令和6年10月 フィットネス体験教室開催(坂城中)
クラブだよりの発行
- 令和6年11月 部活動連携会議の開催 クラブだよりの発行
- 令和6年12月 クラブだよりの発行
- 令和7年1月 第3回クラブ運営委員会の開催
専門部事務局会議の開催
- 令和7年2月 クラブだよりの発行
- 令和7年3月 クラブ総会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	13専門部
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12専門部（12部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1専門部（ボッチャ）
全体の指導者数	175人	全体の運営スタッフ数	4人

②各専門部に関すること

専門部名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
バレーボール	千曲坂城クラブ	バレーボール	月 2-4回休日 ／平日週 2 回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年47名 2年32名 3年36名	4月～3月	各中学校体育館	18人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動、地域クラブ その他：地域クラブ
バスケットボール	千曲坂城クラブ	バスケットボール	月 2-3回休日 ／平日週 2 回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年53名 2年54名 3年57名	4月～3月	各中学校体育館	20人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ
ソフトテニス	千曲坂城クラブ	ソフトテニス	月 2-4回休日 ／平日週 2 回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年36名 2年22名 3年38名	4月～3月	各中学校コート 市テニスコート	10人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	13専門部
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12専門部（12部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1専門部（ボッチャ）
全体の指導者数	175人	全体の運営スタッフ数	4人

②各専門部に関すること

専門部名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
剣道	千曲坂城クラブ	剣道	月 2-4回休日 ／平日週 2 回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年18名 2年23名 3年11名	4月～3月	各中学校 体育館 坂城武道館	12人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ
卓球	千曲坂城クラブ	卓球	月 4回休日	休日9時～12時	1年12名 2年14名 3年9名	4月～3月	各中学校 体育館 ことぶきアリーナ	13人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ
ハンドボール	千曲坂城クラブ	ハンドボール	月 2-4回休日 ／平日週 2 回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年54名 2年65名 3年54名	4月～3月	各中学校 体育館	20人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	13専門部
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12専門部（12部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1専門部（ボッチャ）
全体の指導者数	175人	全体の運営スタッフ数	4人

②各専門部に関すること

専門部名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
サッカー	千曲坂城クラブ	サッカー	月4回休日／平日週1回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年34名 2年40名 3年26名	4月～3月	各中学校グラウンド 市サッカー場	24人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ
軟式野球	千曲坂城クラブ	軟式野球	月4回休日／平日週3回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年24名 2年13名 3年20名	4月～3月	各中学校グラウンド	26人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：部活動 その他：地域クラブ
水泳	千曲坂城クラブ	水泳	月4回／週3回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年8名 2年6名 3年2名	4月～3月	おとりプラザプール	8人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	中体連：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	13専門部
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12専門部（12 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 専門部(ボッチャ)
全体の指導者数	175人	全体の運営スタッフ数	4人

②各専門部に関すること

専門部名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
柔道	千曲坂城クラブ	柔道	月 4 回程度	休日9時～12時	1年2名 2年3名 3年5名	4月～3月	ことぶきアリーナ柔道場	5人	6人 (内、兼務4人)	年会費 3,000円 (保険代 800円含)	中体連：部活動 その他：地域クラブ
バドミントン	千曲坂城クラブ	バドミントン	月 1 回程度	休日9時～12時	1年37名 2年14名 3年7名	4月～3月	戸倉上山田中学校	4人	6人 (内、兼務4人)	年会費 3,000円 (保険代 800円含)	中体連・その他：部活動
陸上競技	千曲坂城クラブ	陸上競技	月 4回休日／ 平日週 1 回程度	休日9時～12時 平日17時～19時	1年6名 2年6名 3年1名	4月～3月	戸倉上山田中学校グラウンド	5人	6人 (内、兼務4人)	年会費 3,000円 (保険代 800円含)	中体連・その他：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	13専門部
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12専門部（12部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1専門部（ボッチャ）
全体の指導者数	175人	全体の運営スタッフ数	4人

②各専門部に関すること

専門部名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ボッチャ	千曲坂城クラブ	ボッチャ（新）	月1回程度	休日9時～12時	小学部2名 中学部10名 高等部7名 1年5名 3年1名	4月～3月	稲荷山養護学校体育館	10人	6人 （内、兼務4人）	年会費 3,000円 （保険代 800円含）	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- フィットネス教室の開催 年5回各中学校で実施(126名参加)
- 太極拳教室の開催 年1回戸倉創造館で実施(12名参加)

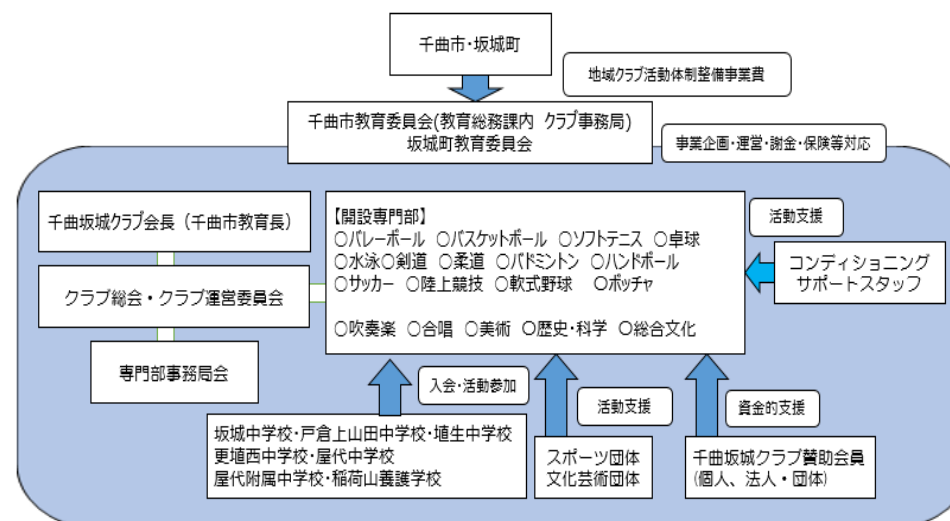
2.実証内容と成果

主な取組例

●千曲坂城クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・卓球・ハンドボール・サッカー・軟式野球・水泳・柔道・バドミントン・陸上競技・ボッチャ
運営団体名	千曲坂城クラブ
期間と日数	バレーボール・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・ハンドボール・サッカー・軟式野球・水泳・柔道・陸上競技 ⇒期間 4月1日～3月31日 ⇒日数 休日4日・平日2日程度 柔道 ⇒期間 4月1日～3月31日 ⇒日数 休日4日・平日1日程度 卓球・バドミントン ⇒期間 4月1日～3月31日 ⇒日数 休日4日 ボッチャ ⇒期間 4月1日～3月31日 ⇒日数 休日1日
指導者の主な属性	スポーツ協会・連盟団体、中学校教員
活動場所	各中学校体育館・市町体育館
主な移動手段	自転車・保護者車・タクシー等
1人あたりの参加会費等（年額）	すべての専門部：2,200円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 専門部代表(バレーボール・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・卓球・ハンドボール・サッカー・軟式野球・水泳・柔道・バドミントン・陸上競技・ボッチャ各1名)

役割：各専門部を代表し、各専門部の目標・活動計画等の作成を行う

- 専門部事務局(バレーボール・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・卓球・ハンドボール・サッカー・軟式野球・水泳・柔道・バドミントン・陸上競技・ボッチャ1名)

役割：各専門部の活動計画、指導者謝金支払い手続き等の事務を行う

- 運営スタッフ(クラブ事務局)4名

役割：各専門部運営の支援、指導者の謝金支払い等の事務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○クラブ事務局に総括コーディネーターを配置し、スムーズな事業運営・事務処理・関係機関との連絡調整を行う。

〈総括コーディネーターの主な業務〉・「入会届」「指導者名簿」「専門部名簿」の整理確認・クラブだよりの作成配布・運営委員会の企画実施

・指導者研修の企画準備推進・校長会、関係団体との連絡調整・賛助会員の募集に関すること・専門部事務局会の企画実施・学校間移動の計画推進・平日移行に関すること・新専門部設置に向けての準備調整・HP管理・事例発表依頼講演、報道機関への対応等

取組の成果

⇒「クラブだより」は、毎月発行することができ、多くの情報を発信することができ、クラブへの理解を高めることができた。

⇒「クラブHP」は、総アクセス数が20,000回を超え、情報発信に大いに役立っている。またオンラインによる指導者研修の実施にも有効に活用されている。

⇒校長会・関係団体等との連絡調整は、スムーズに行うことができた。

⇒運営委員会・専門部事務局会は計画どおり進めることができた。

⇒多くの方のご協力により新専門部(文化系 歴史・科学、総合文化)を設置することができた。

●特別支援学校 稲荷山養護学校との連携 ボッチャ専門部



コーディネーターの具体的な動きの実績

⇒「ボッチャ専門部」の開設に向けて、稲荷山養護学校との連絡・調整を密に行った。また説明会・体験会等行い理解していただき開設できた。

⇒機会あるごとにクラブの理解が図られるよう説明してきた。賛助会の加入も増えつつあり、目標額を上回ることができた。

今後の課題と対応方針

⇒各専門部事務局の負担軽減を図っていく必要がある。保護者との連絡ツールの導入、入会届の電子化、保険の一括加入等検討する。

⇒令和8年度から、会費の値上げに踏み切りたい。保護者の負担軽減が図られるよう会費の設定を行い、会費の引き落としツール等検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・令和5年4月より、各学校部活動顧問から外部指導者、協会、連盟、諸団体へ働きかけた。
- ・総括コーディネーターを中心に、各競技団体、文化芸術団体、公民館等へ協力の依頼を行った。
- ・クラブだより等を通して、指導者への協力依頼の広報を行った。

人材バンクの人数

243名(内文化系67名)

人材バンクの年齢構成

スポーツ系
65歳以上 18名
60歳以下 158名
文化系
65歳以上 10名
60歳以下 57名

登録者属性

- ・教職員78名
(内スポーツ系62名)
※兼職等承認願提出
- ・スポーツ文化芸術団体
※スポーツ協会・連盟
71名参加

種目

- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・ソフトテニス
- ・卓球 ・水泳 ・剣道
- ・バドミントン ・柔道
- ・ハンドボール ・陸上
- ・サッカー ・軟式野球
- ・ボッチャ

資格有無

- スポーツ系
有資格者67名
※日本スポーツ協会
公認コーチ等

取組の成果

- ・地域の各種目のスポーツ協会(連盟)に全面的に協力をいただくことができている。
- ・特に卓球、水泳、剣道、柔道、陸上、サッカー、ボッチャの指導者は、8割以上が協会(連盟)の方々である。
- ・各協会(連盟)等が開催している講習会、大会等へ千曲坂城クラブとして参加することができ生徒、保護者からも喜びの声が聞かれている。
- ・各協会(連盟)の指導者は、専門的指導が可能なので生徒、保護者、部活動顧問から大変喜ばれ成果を挙げている。



●千曲市ボッチャ協会に全面的に協力していただいている

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○指導者の力量向上を図ると同時に、生徒・保護者・地域からの信頼を得るために、以下の研修をオンラインにて実施する。

- 研修1 中学生期のスポーツ・文化芸術活動について
講師 長野県教育委員会保健厚生課指導主事
長野県教育委員会学びの改革支援課指導主事
- 研修2 救命処置と熱中症について
講師 戸倉上山田消防署
- 研修3 日本サッカー協会「Japans Way」の取り組みから
講師 日本サッカー協会 FA コーチ 鮑田 敏
- 研修4 中学生期の栄養・食事について
講師 管理栄養士・栄養教諭 土田 昌子
- 研修5 指導者として大切なこと
講師 信州大学教育学部 教授 結城 匡啓
- 研修6 いじめを見逃さないために
講師 学校心理士 兒玉 淳子
- 研修7 思春期のこころとからだ
講師 公認心理師 田代 純美子
- 研修8 スポーツの価値と中学生の心と体
講師 松代総合病院スポーツ整形外科部長 松永 大吾
- 研修9 スポーツ傷害とその予防について
講師 日本スポーツ協会フィットネストレーナー
宮澤 君衣

これからの指導者に
求められること

長野県教育委員会事務局スポーツ課
和田 直也



指導者研修の参加実績

○オンライン研修 のべ698名受講

受講者の声

・指導者の伝えたいことと生徒、プレイヤーのしたいことの方角性の一致が大切であると改めて感じました。これからは指導者として常に学び、寄り添いサポートしていける関係、環境を作っていきたいと思います。

・ケガへの対応、予防など、やはり単純な技能指導だけでなく、選手、保護者が安心、安全に活動できる環境を指導者が守っていくことは持続可能なクラブ経営において、非常に重要な点だと感じました。知っていることもありましたが、改めて確認したことを日頃の指導に活かしたいと思います。

・子どもを多面的・多角的にみることを大切にしたい。家庭の背景等、指導者同士でもこまめな情報共有をしていくことが必要と感じた。部活動が担ってきた生徒指導的な部分をクラブ運営にも残すにはどうしたらよいか考えていきたい。

・クラブ活動は社会の縮図と考えております。義務と権利、社会生活を営む中で必要なこと、人間関係の構築、そうしたことを学習する場として有意義な活動だと思います。子供たちの成長の手助けをする社会人の一人として携わりたいと思います。

今後の課題と対応方針

- ⇒指導者の研修の必要性・重要性を引き続き共通理解していく。
- ⇒より多くの指導者が受講するよう各専門部の事務局を中心に呼び掛けると同時に受講を確認する。
- ⇒研修内容は、指導者として必須の内容を中心に更に検討する。
- ⇒年に1回は、対面式の指導者研修会の開催を検討する。
- ⇒有資格者を増やしていくことができるよう、資格取得希望者への支援を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○地元のスポーツ協会・連盟の会員が指導者としてクラブに参加していただけるよう働きかける。

○公民館成人講座等の講師へ指導者としてクラブに参加していただけるよう働きかける。

○協会・連盟・文化芸術団体等が主催するスポーツ教室・体験教室・講習会等へクラブとして参加していただけるよう働きかける。

取組の成果

〈リズムフィットネス教室〉

- ・フィットネスは初めてやったけどリズムにあわせて体を動かすことが楽しかったです。
- ・おじいちゃんおばあちゃんも体が痛い最近いつているので紹介したいです。
- ・自分は股関節がかたいので今日やったストレッチを家でもやりたいです。
- ・運動の大切さを知るよい機会となりました。
- ・部活をやっているので体幹の鍛え方を教えてもらってよかった。

〈太極拳教室〉

- ・自分がいかに体のことを考えたり感じたりしてないんだなあと、とても思いました。体が軽くなって気持ちよかったです。
- ・私は腰が痛くなることもあるし、姿勢も猫背だから、無理やりまっすぐさせようと思っていたけど、股関節が姿勢にも運動にも通じることがわかってよかったです。
- ・股関節が柔らかいことが、いろんな運動や生活に影響してくることがわかった。
- ・体の軸を考えながら運動していきたい。



フィットネス教室を開催
(5回)



太極拳教室を開催
(7月)

タクシー等の運行実績

令和6年度（4月～3月）※予算2,500,000円

サッカー専門部 田每班4名⇄おとり班 70回

軟式野球専門部 おとり班2名⇄田每班 78回

バスケットボール専門部 田每班4名⇄つばさ班 24回

バレーボール専門部 田每班2名⇄つばさ班 58回

剣道専門部 田每班他⇄大峰班 20回 ※タクシー4台

軟式野球専門部 大峰班⇄つばさ班 40回

バレーボール専門部 大峰班⇄つばさ班 40回

タクシー等の運航経費・収入

●学校間移動支援

予算 2,500,000円

※すべてタクシー
利用に支出



今後の課題と対応方針

⇒公民館で講師をされている指導者と連携できたのは大きな成果。今後、更に連携を進め新たな教室が開設できるようにしていきたい。

⇒学校間移動支援は、生徒、保護者には大変評価が高い反面、大きな費用が必要となり、今後大きな課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○稲荷山養護学校は、肢体不自由を主とした特別支援学校であるが、千曲市坂城町からも100名の児童生徒が在籍している。インクルーシブな社会が求められていることを踏まえ、可能な範囲でクラブへの加入を促す。
 ○公民館との連携を踏まえ、公民館の講座で講師を務める指導者と連携した教室が開設できるようにする。

各自治体の役割

○千曲市教育委員会
 ・千曲坂城クラブ運営、予算管理
 ・関係機関との連絡、調整
 ・理解促進に向けての広報
 ・諸謝金の事務処理
 ○坂城町教育委員会
 同上
 ※予算については、生徒比で算出。

移動手段

○活動場所までは、自転車又は保護者送迎とした。

事務局運営の方法

○千曲市教育委員会にクラブ事務局を設置。
 ○総括コーディネーターが関係団体等との連絡調整を実施。
 ○予算については、生徒比で算出。

取組の成果

○稲荷山養護学校の生徒が参加可能な「ボッチャ専門部」の開設準備を昨年から始め(体験教室の開催、保護者説明会)今年度開設することができた。稲荷山養護学校から19名、他の中学校から6名の参加、指導者は千曲市ボッチャ協会から10名参加していただき素晴らしい活動ができた。

インクルーシブな活動となったボッチャ専門部



今後の課題と対応方針

○稲荷山養護学校の児童生徒が多く参加していけるように「ボッチャ」だけでなく、他の活動ができないか検討を進める。
 ○公民館で開設されている講座でクラブとして開設可能な教室について検討を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-1

取組事項

- 平日放課後の活動
 - ・男子は全体で1チームで火
木金に活動
 - ・女子はチームで週2回（活
動日はチームによる）の活動
- 休日の活動
 - ・原則チーム毎に活動
- 講習会・練習会の実施
 - ・三枝大地先生による講習会
 - ・ガロonzのスタッフや選手による
講習会

活動の詳細

参加人数	115人	指導者数	18人
属性	千曲坂城クラブ バレーボール専門部		
具体的な内容	・平日放課後の練習（週2～3日） ・休日の練習および練習試合（月に4回程度） ・バレーボール講習会、強化練習会の実施（年4回）		
子供の声	●チームの中でたくさんコミュニケーションをとることができ、チームの仲がもっとよくなった感じがした。 ●コーチングをしあって、みんなでチームを作り上げていきたい。 ●講習会で、私は今まで知らなかったことを知ることができた、いい1日だった。		
関係者の声	●講習会では、自分の指導の見直しができたり、新たな指導法が学べたりした。 ●選手が技術向上するためには、指導者も常に学ぶ姿勢で取り組むことが大切。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 2,574,000円 ○事務費20,000円 ○講習会参加費 2,000円(一人)		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-2

取組事項

- 休日は月1～2回程度、平日は週2日程度の活動を行っている。
- 休日は、合同で練習・技術講習会・練習試合等を行っている。
- 休日の練習で、ベーシックコースとアドバンスコースの習熟度別のコースを設定し、生徒の希望に応じた活動を試行している。
- 平日は、人数の少ない班(西中・埴生中・屋代中)は、合同で練習している。
- 地元協会主催の大会「千曲カップ」には、全員が参加できるよう男女それぞれ5チームを編成し参加している。

活動の詳細

参加人数	164人	指導者数	20人
属性	千曲坂城クラブ バスケットボール専門部		
具体的な内容	・平日週2回の練習（1日2時間）・休日月1回の練習（1回3時間程度） ・少人数のところは合同での練習 ・休日練習を利用した練習ゲームや全体での習熟度に応じたコース別の練習 ・地元協会の大会参加、B 2リーグのエキシビジョンゲームへの参加		
子供の声	●自分の学校だけだと人数が少なく十分な練習ができないが、人数が多くなっていろいろな練習ができてよかった。 ●自分のレベルにあわせて、同じようなレベルの人と練習や活動ができて向上した。 ●他校の友だちができてうれしかった。 ●他校の体育館が会場のときなど、親に送迎してもらうので親が大変そう。		
関係者の声	●少子化、バスケットボール競技人口の減少に伴い、まとまった人数で活動ができる点はよい。 ●部活動からの移行なので、どうしても中学校の先生（顧問）の指導が中心となっている。将来的なことを考えると、地域在住の指導者が中心になっていく方策を考えたい。 ●ひとつのクラブでは中体連の大会には出られないのが現状であり、クラブとしての大会参加が課題となる。また、その場合のチームユニホームなど用具の準備をどうするかも課題である。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 2,764,800円 ○事務費20,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-3

取組事項

- 休日練習
毎週土曜日9時～12時
(合同練習・班別練習・
南北別練習)
- 平日練習
週2～3回 2時間程度
- 練習試合、大会への参加
- CSCウインターカップ（大会）
の実施
- 保護者会実施

活動の詳細

参加人数	96人	指導者数	10人
属性	千曲坂城クラブ ソフトテニス専門部		
具体的な内容	・休日練習は、更埴テニスコートでの合同練習を中心に進めた。班別練習も行った。 ・平日練習は、新人戦以降に田每班、杏苑班、つばさ班で試験的に実施した。 ・練習試合や大会等にクラブとして複数班合同で参加した。 ・ウインターカップと称し、12月にクラブ内で大会（個人戦）を行った。 ・12月20日にクラブ方針、今後の活動について保護者と情報共有した		
子供の声	●他校の生徒と一緒に練習ができて楽しい。また、多くのコーチに教えてもらえるのがいい。 ●冬場の練習が、長くできる。しかし、帰りが遅くなるのが心配。 ●もっとたくさん練習したい。		
関係者の声	●何人かの指導者で相談しながら練習できるのがありがたい。（指導者） ●技術の向上を中心に、勝敗だけにこだわらず礼儀作法や仲間との関わり方を学べる場であって欲しいと思う。（保護者） ●送迎など、課題が多いですが、子供の部活時間を第一優先に考えて、いい方向に向かえばいいと思います。（保護者）		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 648,000円 ○事務費20,000円 大会・練習試合参加費 一人 1,000円～3,000円程度 ボール等は、各校のボールを借りて練習した。 今後は年間2,000円程度集金し、購入する		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-4

取組事項

○休日練習～月2回、中学校体育館で一斉に集まっての練習（全体練習・練度別・試合練成など）

○平日練習～毎週火曜日（全体練習・コース別・近隣班合同の3形態を適宜配置）

○小学生交流、他県や他地区との交流練習

○指導者会議、保護者説明会を開催し、共通理解の元で活動していく

○部内大会を実施

活動の詳細

参加人数	52人	指導者数	12人
属性	千曲坂城クラブ 剣道専門部		
具体的な内容	○全体練習・コース選択別練習、近隣班合同練習を適宜設定して充実を図った。 ○初心者指導、昇段昇級審査講習や試合強化など生徒のニーズへの対応 ○小学生交流、他県や他地区との交流練習 ○指導者会議、保護者説明会を開催し、共通理解の元で活動していく。 ○部内大会を実施		
子供の声	●他校の人や他校の先生方とより仲良くなれて、とてもうれしかった。 ●何よりたくさんの仲間や先生と練習できるのがとても楽しかった。 ●大会などで、更埴地区同士で応援し合ったりしているのが、ひとつのチームになっていて、私自身もとてもパワーになりました。		
関係者の声	●更埴中学生の基本が定着してきた。 ●多くの子どもたちの活躍の場をつくっていききたい。 ●底辺拡大と共に、力のある子が埋もれていかないようにしたい。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 1,164,600円 ○事務費20,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-5

取組事項

- 毎週土曜日の午前中3時間程度
 - ・ウォーミングアップ
 - ・筋力トレーニング
 - ・基本練習
 - ・多球練習
 - ・ゲーム練習
- イベント 3回
 - ・講習会への参加 1回
 - ・練習試合への参加 2回

活動の詳細			
参加人数	35人	指導者数	13人
属性	千曲坂城クラブ 卓球専門部		
具体的な内容	通常練習 25回（毎週土曜日の午前中3時間程度） （ウォーミングアップ・筋力トレーニング・基本練習・多球練習・ゲーム練習） イベント 3回（講習会への参加 1回・練習試合への参加 2回）		
子供の声	●中学校の顧問の先生ではなく、競技を専門にしている地域指導者の指導を受けられ良かった。 ●クラブ外の中学生と練習試合のできる機会があり良かった。 ●有名選手の講習会に参加することができ良かった。 ●もう少し地域指導者の人数をつけて欲しい。 ●もう少し活動日を増やして欲しい。		
関係者の声	●出席率の高い子は着実に上達している。 ●クラブ内の他校同士の仲が良くなっている。 ●クラブ内の他校同士のライバル意識が生まれ競争している。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 864,000円 ○事務費20,000円 ・トレーニングボール 10ダース入り6箱 約36,000円 ・試合球 1ダース入り2箱 約7,000円 ・交流試合 1回開催 体育館使用料 約27,000円		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-6

取組事項

○休日は月1～2回程度、平日は週2日程度の活動を行っている。

○休日は、合同で練習・技術講習会・練習試合等を行っている。

○地元のハンドボール協会主催の指導者研修会、技術講習会に参加している。

○協会主催のU-13大会、U-16大会へ参加している。

○活動内容の充実を図るため、ゴールキーパー講習会、伝達講習会、合同練習会等を行っている。

活動の詳細

参加人数	173人	指導者数	20人
属性	千曲坂城クラブ ハンドボール専門部		
具体的な内容	・指導者研修会4回実施（日本ハンドボール協会より講師派遣、他カテゴリの指導者も参加） ・技術講習会4回実施（日本ハンドボール協会より講師派遣、小学生も参加） ・ゴールキーパー講習会3回実施 ・合同練習会（班ごと、小学生・高校生・大学生・国体成年女子との交流、県外チーム） ・大会（U-13大会、U-16大会） ・県外遠征（富山県、群馬県、愛知県）		
子供の声	●高い実績をもったコーチに教わったことが普段の練習やトレーニングに役立っている。 ●ゴールキーパー専門の先生に教わる機会ができて知らなかったことを知れた。 ●違う学校の人と一緒に練習することが増えてきたけど慣れてきてコミュニケーション力が上がった。 ●自分の学校だけで練習するよりも高いレベルでできて充実していた。		
関係者の声	●ある程度、統一した系統的な指導を行えるようになったことは今後のクラブ化には有益 ●指導者同士の交流や共通認識が高くなった。 ●完全移行に向けた見通しを生徒や保護者と共有できた。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 3,367,800円 長野県ハンドボール協会より補填 ○事務費20,000円		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-7

取組事項

- 4月 市サッカー協会総会参加
- 日本サッカー協会公認審判員資格更新講習会への参加
- 12月14日 各班代表者によるR7年度に向けた打合せ会議
- 千曲坂城地域 市民広報紙「ちくま未来新聞」へサッカー専門部の紹介記事と投稿
- 複数の指導者による指導内容の充実・・・U12の少年指導者とU15の中学指導者による合同指導
- 平日の冬季の練習量確保・・・2つの班で、体育館練習導入
2つの班で、ナイター施設利用
- 平日練習時の学校間移動タクシー料金の市教委からの補助金利用
- 従来の部活動の備品や設備の継続使用・共同利用

活動の詳細

参加人数	100人	指導者数	24人
属性	千曲坂城クラブ サッカー専門部		
具体的な内容	・4つの中学校区ごとの班で練習 ・2つの中学校区ごとの班で日本サッカー協会地区リーグ戦（各チーム14試合ずつ）参加 ・4つの中学校区ごとの班による中体連夏季大会・新人大会出場		
子供の声	●家から練習会場が近いのでありがたい。少年時代の指導者が関わってくれてうれしい。 ●試合数が過不足なく、学業との両立がしやすいので、よい。 ●節目となり、上位大会へ進めるので目標にしやすい。		
関係者の声	●練習会場までの送迎や子どもの自転車移動距離が短く、安心できる。 ●テスト時期や8月の猛暑期間に試合がないので、ありがたい。 ●全員が目標に向かって、ひとつになれていて、ありがたい。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 2,152,800円 ○事務費20,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-8

取組事項

○休日は月4回程度、平日は週3日程度の活動を行っている。
 ○休日は、合同で練習・技術講習会・練習試合等を行っている。
 ○平日は、人数の少ない埴生中・更埴西中・屋代中は、合同で練習している。
 ○中体連以外の大会は、クラブとして参加している。
 ○高校での活動につながっていくように、部活動終了後の3年生の活動も大事に考え活動している。

活動の詳細

参加人数	57人	指導者数	26人
属性	千曲坂城クラブ 軟式野球専門部		
具体的な内容	○複数校の組合せ（人数・学校間距離）を工夫し、2チーム編成で活動した。 ○部活動終了後も3年生合同チームで大会に参加した。		
子供の声	●平日休日とも大勢で練習でき、元気が出るし、仲間作りもできる。 ●単独チームでは大会参加ができないが、クラブチームで大会に参加できて嬉しかった。 ●部活動は3年の大会で終了するが、クラブでは継続して活動ができ、高校へつながっている。		
関係者の声	●活動場所は日によって変わるが、子どもが嬉々として活動していて嬉しい。 ●学校間移動が自転車の範囲なので、送迎の負担等、部活動時と変わらないのありがたい。 ●大会参加が可能になって、ありがたい。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 2,248,200円 ○事務費20,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-9

取組事項

○4月～10月 4月から、月曜日は、合同部活動として、活動。火・木・金曜日と土曜日午前を、水泳専門部として活動

○競技会参加

①中体連大会（北信大会、県大会、学年別大会）千曲坂城クラブ水泳専門部（おばすてスイミングクラブ）として、すべて選手登録して参加

②協会主催大会（アクアウィング記録会・長野県選手権大会・スプリント水泳大会・春季室内選手権の4大会のすべて「おばすてスイミングクラブ」

所属で参加

○トップアスリート事業 6月1日（土）リオオリンピック女子200m平泳ぎ金メダル金藤理絵先生をお招きし、泳法指導を受ける。わかりやすい指導と、具体的なアドバイスで、よりいっそうのやる気がでる。

活動の詳細

参加人数	16人	指導者数	8人
属性	千曲坂城クラブ 水泳専門部		
具体的な内容	長野県下初のクラブチーム（戸倉上山田中学校・埴生中学校・屋代中学校の合同チーム）として、中体連県大会までの3大会と水泳協会主催の5大会に出場した。		
子供の声	●人数が揃わずに出られなかったリレーに未経験の1年生も入れ、参加できた。最下位であったが、1年生が「楽しかった」と言ってレースから戻ってきて語った。地域クラブになってよかったと感じた。 ●今まで市内の隣の学校の生徒と共に練習するため、「1年生なのに自分より速いので刺激を受けた。」「刺激を受け、練習してタイムを縮められて入賞できた。」と生徒会誌から抜粋引用		
関係者の声	●市の屋内プールを活用することで、各校の水泳部がプール掃除したり塩素を投入したりすることなく効率的に施設を活用することができる。 ●水泳部の顧問になったけれど、実際に指導ができないので、教えることができる教員が配置された学校に生徒が集まって教えてもらい技能の向上ができてありがたい。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 518,400円 ○事務費20,000円		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-10

取組事項

○指導に際し「指導者」は柔道に対する専門的な知識や技術、中学生等の指導を行う上での理解を有する者でなければならないため全日本柔道連盟公認指導者ライセンスを取得した者が当たっている。

○練習時間は昼間の時間帯と夜の時間帯に実施し生徒が都合の良い時間帯に練習に参加できるよう練習時間を設定している。このことにより週一回は練習に参加できるよう配慮した。

○練習内容も基礎的な練習と乱取りなど発展的な内容のバランスを考えて指導している。

○試合に対する意欲が高まってきているので試合期、鍛錬期に分けて練習内容を工夫している。

活動の詳細

参加人数	10人	指導者数	5人
属性	千曲坂城クラブ 柔道専門部		
具体的な内容	柔道の基本的な練習を行った。立ち技については打込み、投込み、乱取りを通し、自身に最も適した技の習得を図った。寝技については各種抑え込み技の習得と立ち技から寝技への移行方法の習得を図った。		
子供の声	● 柔道に対する興味が深まった。 ● 他の中学生とも練習ができて交流が深められた。 ● 練習回数は多くなかったが十分楽しめた。		
関係者の声	● 基本的な練習を繰り返し行ってきたが柔道全般への理解や技術の向上も見られた。 ● 年次を重ねるごとに練習の密度も高まり試合等への関心も高まった。 ● 練習を重ねることにより選手たちにチームワークというものが育ってきている。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 302,400円 ○事務費40,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-11

活動の詳細

取組事項

- 月2～3回程度、土曜日の午前中に活動を設定
- 活動場所 戸倉上山田中学校 校つばさ体育館に固定
- 活動場所へは自転車又は保護者の車による送迎
- 活動内容
 - ・初心者と経験者に分けて実施
 - ・初心者はラケットの握り方から始まり基礎練習(各ストロークの打ち方等)を主に練習
 - ・経験者は、基礎打ち、シングルス、ダブルスのノックやゲームを主に練習

参加人数	58人	指導者数	4人
属性	千曲坂城クラブ バドミントン専門部		
具体的な内容	初心者；ランニングやインターバルトレーニングで体力作り ラケットの握り方など基本的な指導 各ストローク（クリア ドライブ ドロップ スマッシュ プッシュ ヘアピン）の打ち方 シングルス、ダブルスのゲームのしかた シングルス、ダブルスの審判のしかた シングルス、ダブルスの試合経験者；基礎打ち シングルス、ダブルスのノックやゲーム		
子供の声	●バドミントンのルールや楽しさを多く知ることができた。もっと練習しようと思えるようになったので、クラブは楽しかった。2年生になっても続けたい。 ●他の中学校のクラブ員たちとも、コミュニケーションをとり、仲の良い友達も増えた。 ●部活動だけではできなかったことを、クラブの時間にコーチの指導で練習することができた。 ●他校の生徒と交流してみて、コミュニケーションがとれて楽しくできた。一つ一つの技術の精度が上がり、その技を追求してバドミントンがもっとうまくなりたいと改めて思った。		
関係者の声	●戸倉上山田中学校以外の生徒はほとんどが初心者であった。月に2回ほどの活動であったが、基本から指導して少しずつであるが上達してきた。 ●シャトルを打つことが楽しいと思えるように、シャトルを打つことを多く取り入れてきた。バドミントンの楽しさを味わうことができたのではないかなと思う。 ●クラブ員数が多く、会場や指導者の人数を増やしていく必要があるが、習熟度別に練習を工夫するなどしてなるべく個に沿った指導を心がけてきた。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 105,300円 ○事務費20,000円		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-12

取組事項

○活動方針は「感謝、協力とスチューデントファースト・スチューデントセンター」を掲げている。

○練習日は、毎週日曜日の午前中、水曜日の17時30分からの2回計画

○日曜日の練習は、地域の小学生クラブと合同で実施する場合もある。

○練習内容は、全体アップ、ドリル、ラダー、ミニハードルと基本の動きづくりを行い、その後、各種目練習を実施

○種目練習が終わったところで、全体で片付け、整備、ダウンを実施

活動の詳細

参加人数	13人	指導者数	5人
属性	千曲坂城クラブ 陸上競技専門部		
具体的な内容	・毎週日曜日8：00～11：00 水曜日17：30～19：30戸上中グラウンドで練習 ・地域小学生の陸上クラブと合同で実施する場合もあり。 ・内容は全体アップ、ドリル、ラダー、ミニハードルと基本の動きづくりを行い、その後、各種目練習を実施		
子供の声	●他の学校の仲間と練習ができて楽しい。 ●専門のコーチのもとで練習できるので競技力を向上することができている。 ●小学生とも練習をするので、お手本になるようがんばれる。 ●もっと練習したい。		
関係者の声	●練習場所(戸倉上山田中グラウンド)が固定されていてありがたい。 ●小学生とも合同で練習できることは、一貫指導となりよい。 ●今後、平日の練習日を増やす予定だが、指導者等の確保が課題。 ●クラブとして大会参加になっていくが、手続き等心配である。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 518,400円 ○事務費20,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①-13

取組事項

- 専門部発足に向け、前年度より体験授業、体験会を実施した。
- 4月28日に発足、土日に2時間ずつ16回活動をした。
- 障がいのある生徒は、保護者とともに練習を行った。
- 練習は前半は基礎練習、後半はゲームを行った。
- 通常中学の部員と養護学校の部員が交流できるような場面を作るように心がけた。
- 夏のすいか割り大会、冬のクリスマスマッチなどのイベントも実施し、部員や家族、指導者の交流の場となった。

活動の詳細

参加人数	25人	指導者数	10人
属性	千曲坂城クラブ ボッチャ専門部		
具体的な内容	・部員は稲荷山養護学校の生徒と、更埴西中学校の生徒であり、異なる校種の生徒が共に活動することができた。 ・毎回指導者が5名ほどいたため、きめ細やかな指導ができた。4月に初めての練習をした生徒たちも、すでにボッチャをやっていた生徒も、1年間継続的に練習を行ったことで、それぞれの技術が向上した。		
子供の声	●楽しかったです。 ●始めたころよりも、とても上達できた。プッシュなどがうまくなってきたので今度はヒットを練習したい。 ●多くの人の支えや、指導者の方のおかげで、1年間活動できた。これからも、もっとボッチャを知ってもらえるように頑張りたい。		
関係者の声	●障がいのある生徒とのコミュニケーションも回を重ねることでお互いに分かってくる部分があり、楽しい。 ●このボッチャ専門部は、共生社会の実現の第一歩のような気がする。 ●子どもたちが大会に出たときをイメージした練習を行ってほしい。		
運営経費	○クラブ会費 2,200円(一人) ○指導者謝金 388,800円 ○事務費20,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行っていく必要があることから、収支構造の可視化を行い、今後適切な受益者負担額の検討を進める。

地域クラブに係る経費 ※文化系含むクラブ全体

【歳入】 (単位：円)			【歳出】 (単位：円)		
科目	説明	金額	科目	説明	金額
補助金	地域クラブ活動体制整備事業等補助金	14,875,500	人件費等	総括コーディネーター 1,264,320 円 クラブ事務局職員 4,748,000 円	6,012,320
会員 年会費	地域クラブ活動会費 @2,200 円×1,000 人 (年会費 3,000 円のうち、800 円は会員が加入する保険代)	2,200,000	報償費	指導者謝金 コンディショニングサポートスタッフ謝金 等	18,000,000
賛助会員 年会費	個人：一口 1,000 円 法人：一口 5,000 円	1,000,000	旅費	指導者大会等引率旅費	600,000
負担金	千曲市	5,745,986	需用費	クラブのぼり旗、ポロシャツ 等	500,000
	坂城町	1,716,334	負担金	指導者保険負担金	425,500
計		25,537,820	計		25,537,820

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算 ※文化系含むクラブ全体

【歳入】

科目	説明	予算
補助金	地域クラブ活動体制整備事業等補助金	0
会員年会費	地域クラブ活動会費 @2,200 円×1,000 人	3,000,000
会員月会費	月 3,000 円上限	22,100,000
賛助会員年会費		1,000,000
負担金	千曲市負担金	9,140,000
	坂城町負担金	3,100,000
寄附金		0
合計		38,340,000

【歳出】

科目	説明	予算
人件費等	コーディネーター	1,270,000
	事務局職員	4,700,000
報償費	指導者謝金 等	25,000,000
旅費	指導者大会等引率旅費	1,500,000
需用費	クラブのぼり旗、ポロシャツ 等	300,000
	消耗品 等	0
役務費	スポーツ安全保険料 指導者+生徒	1,070,000
使用料及び賃借料	会費徴収サービス利用料	1,000,000
負担金補助	専門部活動補助金	3,500,000
合計	合計	38,340,000

○持続的な運営をしていくためには、どの程度の受益者負担が必要か試算を行った。

○国、県からの補助金は、ゼロとし、千曲市・坂城町からは今後負担金として想定できる額とした。

○経済的理由で参加を見送る生徒が出ないよう、月会費の上限を 3,000 円として試算している。

○月会費については、1、2 年生は 10 か月、3 年生は 4 か月で試算。

○最低 25,000,000 円程度の受益者負担は必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- 今年度の予算をもとに、令和7年度休日はすべてクラブ活動(平日は可能なところから)、令和8年度は休日・平日すべてクラブとなる場合の予算を試算した。
- 国・県からの補助金がなくなった場合、最低でも25,000,000円程度の受益者負担は避けられないと考えられる。
- 千曲市・坂城町からの負担金についても市町の予算状況に応じて変動する可能性がある。
- クラブの備品・消耗品については、限られた予算の範囲内で支援していかなければならず、不足については、新たな集金もやむを得ないと考えられる。
- 学校間移動支援については、今後多くの専門部で必要となることから継続していくのは大変厳しいと考えられる。

今後の課題と対応方針

- 保護者の負担が軽減されていくように、国・県からの補助金が継続されていくよう働きかけをしていく。
- 市町からの負担金が継続されていくようお願いしていく。
- 部活動の予算やPTA団体等からの部活動補助をクラブへ転換してもらうようお願いしていく。
- 賛助会員・ふるさと納税の活用を一層図る。

令和7年度～令和8年度予算の見通し ※試算

【収入】

科目	説明	受入	令和7年度	令和8年度
補助金	※国・県とも不渡り	14,975,500	19,500,000	-
年会費	2,000円×1,000人 会費800円+事務費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
月会費	活動状況により設定 上限3,000円	-	-	22,100,000
賛助会員	個人一口1,000円 団体一口5,000円	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負担金	千曲市	5,745,985	8,490,000	9,140,000
	坂城町	1,715,334	2,700,000	3,100,000
計		25,337,820	34,690,000	38,340,000

【支出】

科目	説明	支出	令和7年度	令和8年度
人件費等	副団コーディネーター1,354,326円 クラブ事務局職員4,748,000円 ※2,222,446円	4,215,000	5,970,000	5,970,000
仮設費	指導者謝金 コンディショニングサポートスタッフ謝金等	30,274,000	22,100,000	25,000,000
旅費	指導者大会等引当旅費	2,279,528	1,500,000	1,500,000
備品・消耗品等	各専門部備品・消耗品・修繕費等	4,182,547	1,000,000	3,500,000
学校間移動支援費	平日学校間移動支援	7,984,300	2,500,000	
器用費	クラブのほり旗・賛助会旗 ※このほり旗・ロゴ入りバッチ	400,000	300,000	300,000
負担金	指導者負担負担金 11,850円×250人	334,800	270,000	270,000
車費	会費折戻 8000円×1,000人 スクリーン(スクレイ)等手数料		800,000	800,000
			250,000	1,000,000
計		49,570,275	34,690,000	38,340,000

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○クラブが市町の施設を利用する場合は、100%減免措置とする。

※主に使用した施設 ことぶきアリーナ(千曲市)・戸倉体育館(千曲市)・上山田農業者トレーニングセンター(千曲市)・東部体育館(千曲市)

千曲市サッカー場(千曲市)・更埴中央公園グラウンド(千曲市)・更埴テニスコート(千曲市)・坂城町文化センター(坂城町)・坂城町武道館(坂城町)

○平日・休日の学校施設の利用については、学校教育活動の一環として位置づけられていた部活動の使用と同様に、クラブが社会体育団体より優先的に利用できるようにした。但し、学校以外の市町の公共施設は、社会体育団体と同様とした。

取組の成果

⇒市町の施設を100%減免措置を受けて活動した専門部

バレーボール・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・卓球・ハンドボール・サッカー・軟式野球・柔道・バドミントン・陸上

⇒クラブが市町の施設を利用する場合は、100%減免措置としたことは、保護者負担を軽減することになり好評だった。

⇒平日・休日の学校施設の利用クラブが社会体育団体より優先的に利用できるようにしたことは、安定して活動場所を確保することができ好評だった。



市施設で練習するソフトテニス専門部



市施設で練習する卓球専門部

今後の課題と対応方針

○クラブが市町の施設及び学校施設を利用する場合は、引き続き100%減免措置とする。

○平日、学校施設は体育館等外部団体への貸し出しもあるが、クラブの利用が可能な限り優先となるよう検討を進めたい。

○休日・平日ともに学校施設の施設管理が課題であり、セキュリティの問題もあり、大きな課題であるが、早急に検討を進めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

持続可能なクラブにしていくために、資金的援助を地域から受けていくために「賛助会員制度」を位置付けた。



千曲坂城クラブ 賛助会員募集のご案内
すべての子どもたちにスポーツ・文化芸術環境を！

個人年会費 一口 1,000 円から
法人・団体年会費 一口 5,000 円から

「千曲坂城クラブ」とは？
令和 5 年 3 月 23 日設立

「千曲坂城クラブ」は、中学校部活動の段階的地域移行に向けて、千曲市教育委員会と坂城町教育委員会が設立したクラブです。このクラブは、中学校部活動に代わる「新たなスポーツ・文化芸術環境の構築」を目指しています。
※中学校部活動の段階的地域移行
一令和 2 年 8 月に文部科学省が示した方針



人生を豊かにしてくれるスポーツ・文化芸術環境をすべての子どもたちに！

賛助会員について

クラブ運営は、生徒からの年会費と市町からの補助金で行われています。年会費については、家庭の経済状況でクラブへの参加費負担が異なることがないよう、現在 3 千円としています。市町からの補助金もいただいているのですが、市町の財政も大変厳しい状況となっています。

クラブ運営には、指導者への謝金をはじめ指導員、役員等の購入、平日の活動場所への移動費用、大会への参加費用等、今後多くの費用が必要となります。保護者の負担を少しでも軽減し、スポーツ・文化芸術活動をするすべての子どもたちに保障し、持続可能なクラブとしていくために、クラブへの資金的支援をしてくれる方（個人・法人・団体）が「賛助会員」となります。

賛助会員の手続き・年会費等

- 1 別紙「千曲坂城クラブ 賛助会員規約」を確認のうえ、別紙「賛助会員申込書」をご提出ください。
【郵送先】〒387-8511 千曲市坂城下二丁目 1 番地
千曲市教育委員会 教育総務課 千曲坂城クラブ事務局
【FAX】026-273-8787
- 2 年会費 ※何口でも結構です
○個人年会費 1口 1,000 円
○団体・法人年会費 1口 5,000 円
- 3 納入方法
○銀行振込⇒下記の口座へお振込みください。
八十二銀行 坂代支店(285) 普通預金 口座番号 677289
口座名義：千曲坂城クラブ(坂城町方)
※大変申し訳ございませんが、振込手数料は賛助会員の方にご負担になりますのでご了承ください。
⇒賛助会員の手続きをされた翌年以降は、5 月初旬に賛助会員年会費納入のお願いをしますので、よろしくお願いいたします。

その他

- 「賛助会員」になっていただいた場合、クラブにより、クラブHP、クラブポスター、その他千曲坂城クラブが発行するチラシ等に、お名前を掲載させていただきます。（掲載可の方のみ）
また、様々な機会を通じて賛助会員様の紹介をさせていただきます。
- 「ユニフォームを寄付したい」「大型の備品を寄贈したい」等ありましたら、個別にご相談させていただければと思いますので、クラブ事務局へご連絡ください。
- 何かご不明なことがありましたらクラブ事務局へお問い合わせください。



Well-being を実現しよう！

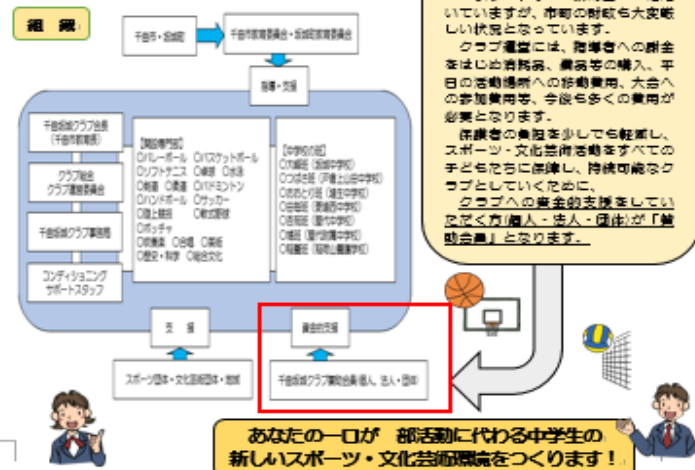
千曲坂城クラブ事務局 千曲市教育委員会教育総務課内
担当 事務局長兼総務コーディネーター 山根 義夫
〒387-8511 千曲市坂城下二丁目 1 番地
電話 026-273-1111 内線 4101
Fax 026-273-8787
Mail kyoiku@city.chikuma.lg.jp

取組の成果

○個人一口1,000円法人・団体一口5,000円とし、目標額を百万円に設定し、様々な機会を通じて呼びかけを行ってきた。
○その結果、目標額を超えることができた。

今後の課題と対応方針

○今後も継続して賛助会員の拡大が図られるよう呼び掛けていく。
○商工会等の会議、地域の会議等へも継続的に呼び掛けていく。
○賛助会員制度だけでなく、「企業版 ふるさと納税」についても今後広報していく。



2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ⇒関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 - ・クラブ事務局に総括コーディネーターを配置し、スムーズな事業運営・事務処理・関係機関との連絡調整を行った。
- ⇒指導者の質の保障・量の確保
 - ・令和5年4月より、各学校部活動顧問から外部指導者、協会、連盟、諸団体へ働きかけた。
 - ・総括コーディネーターを中心に、各競技団体、文化芸術団体、公民館等へ協力の依頼を行った。
 - ・クラブだより等を通じて、指導者への協力依頼の広報を行った。
 - ・指導者の力量向上を図ると同時に、生徒・保護者・地域からの信頼を得るために、研修をオンラインにて実施した。
- ⇒関係団体・分野との連携強化
 - ・地元のスポーツ協会・連盟の会員が指導者としてクラブに参加していただけるよう働きかけた。
 - ・公民館成人講座等の講師へ指導者としてクラブに参加していただけるよう働きかけた。
 - ・協会・連盟・文化芸術団体等が主催するスポーツ教室・体験教室・講習会等へクラブとして参加していけるよう働きかけた。
- ⇒面的・広域的な取組
 - ・地域にある特別支援学校「稲荷山養護学校」の生徒がクラブに参加できるように「ボッチャ専門部」を立ち上げた。
 - ・公民館講座の講師を指導者として、「リズムフィットネス教室」「太極拳教室」を開催することができた。
- ⇒参加費用負担の支援等
 - ・地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行っていく必要があることから、収支構造の可視化を行い、今後適切な受益者負担額の検討を進めた。
 - ・今年度の予算をもとに、令和7年度休日はすべてクラブ活動(平日は可能なところから)、令和8年度は休日・平日すべてクラブとなる場合の予算を試算した。
 - ・国・県からの補助金がなくなった場合、最低でも25,000,000円程度の受益者負担は避けられないと考えられる。
 - ・千曲市・坂城町からの負担金についても市町の予算状況に応じて変動する可能性がある。
 - ・クラブの備品・消耗品については、限られた予算の範囲内で支援していかなければならず、不足については、新たな集金もやむを得ないと考えられる。
 - ・学校間移動支援については、今後多くの専門部で必要となることから継続していくのは大変厳しいと考えられる。
- ⇒100%減免措置を受けて活動した専門部
 - ・バレーボール・バスケットボール・ソフトテニス・剣道・卓球・ハンドボール・サッカー・軟式野球・柔道・バドミントン・陸上
- ⇒クラブが市町の施設を利用する場合は、100%減免措置としたことは、保護者負担を軽減することになり好評だった。
- ⇒平日・休日の学校施設の利用クラブが社会体育団体より優先的に利用できるようにしたことは、安定して活動場所を確保することができ好評だった。

●成果の評価

- ⇒今年度計画されたことは、ほぼ計画通り進めることができた。
 - ・特に「ボッチャ専門部」は、稲荷山養護学校と千曲市ボッチャ協会から多大なご協力をいただき充実した活動を行うことができ、大きな成果を挙げることができ多くの方から賛同をいただいた。
 - ・各専門部で、活動形態、活動場所等様々な試行がされ、よりよい活動について検討を進めることができた。
 - ・クラブとして大会に参加することができた。(バレーボール・剣道・サッカー・水泳)
 - ・平日活動の試行も多くの専門部で実施できた。
- ⇒課題として次のことが挙げられる。
 - ・持続可能な活動にしていくなために必要な資金の確保 ※保護者負担の軽減を踏まえた会費をどうしていくか。
 - ・平日の活動をどうしていくか。特に平日、指導者が確保できない場合どうするか。
 - ・生徒の負担を考慮した活動場所をどうしていくか。保護者の送迎負担をどうやって軽減していくか。

●今後に向けて

- ⇒年会費・月会費について、令和8年度完全移行を見据え、検討を進めていく。
その際、各専門部の目標、活動頻度等明確にしていくとともに、どの程度の予算が必要か見通しを持ち、保護者負担の軽減を踏まえ決定していく。
- ⇒各専門部の活動目標・内容等を明確にしていく。指導者・生徒・保護者がともに考え、充実した活動となるよう話し合っていく過程を大事にしていく。

広報資料

○年度当初、生徒・保護者・地域等へ千曲坂城クラブの理解を促すために配布したチラシ

○稲荷山養護学校へ配布したボッチャ専門部募集チラシ

[illegible]

会期6年度 クラブ編

```

graph TD
    A[千代田市、市議会] --> B[千代田市教育委員会、市議会教育委員会]
    B --> C[指導・支援]
    C --> D[千代田版クラブ活動  
(千代田市体育協会)]
    C --> E["【運動専門部】  
○リレーボール  
○ソフトテニス ○卓球 ○水泳  
○バドミントン ○陸上競技 ○軟式野球  
○サッカー ○ラグビー ○剣道  
○射撃 ○柔道 ○相撲  
○チェス ○囲碁 ○将棋  
○空手道 ○合気道 ○花道  
○歴史・科学 ○総合文化"]
    C --> F["【中学校の部】  
○大崎校 ○若葉中学校  
○つくば東(つくば第一中学校)  
○おおたけ台(富士中学校)  
○中野原(香取中学校)  
○赤松山(霞が丘中学校)  
○南流(足利高等学校)  
○稲佐(稲佐高等学校)"]
    D --> G[実施]
    E --> G
    F --> G
    G --> H[委員の支援]
    H --> I[スポーツ団体・文化芸術団体・地域]
    H --> J[千代田版クラブ活動の推進人、法人・団体]
  
```

今年度は、18の専門部が開設され活動します！

専門部：キルバーボール・バスケットボール・ソフトテニス・卓球・水泳・剣道・柔道・バドミントン・ハンドボール ※サッカーは、陸上競技・軟式野球・ポッチャー・吹奏楽・合唱・美術・歴史科学・総合文化 ※総合文化では、様々な教室が開催大変なされています。

各専門部には、各学校に部がありまして、(前年中々大規模 戸上千つばま校区 旗主中とおおたけ町西中+田母埜 豊竹中+吉荒院 豊竹町真中+博研 稲山山麓中学校+稲佐町)

各専門部は、各町で活動したり、地区ごと活動したりしています。

稲山山麓学校へ参加!

賛助会員募集中!!

あなたの一口が 都議会に代わる中学生の新しいスポーツ・文化活動拠点を作ります！

〇年会費 東京都内でも最安値です
→ 個人年会費 10 1,000円から
→ 個人+法人年会費 10 5,000円から

下のQRコードを読みかください
ハナコ通信 電話03-6283-2289 稲山山麓
Eメール番号 677-2789
口座名義：千代田版クラブ活動実行部

早くも、千代田版クラブPを乞いかけたところ、クワガタ君が来てくれて、お話を聞かせてくれました。

Routemap

年度	R5	R6	R7	R8
太宰府市議会	休日部活動の地域移行に向けた改革推進期間 (段階的に地域移行)			連携ネットワークを構築するに改革
千代田版クラブ	休日部活動 1年以上以上 クラブ活動	休日部活動 千代田版クラブ活動 クラブ活動	休日部活動 千代田版クラブ活動 クラブ活動	休日部活動 千代田版クラブ活動 クラブ活動

令和7年度2学期に行われる予定でクラブとなり、例年8年度よりR9以降はクラブでクラブ活動をします。

千代田版クラブ活動 千代田市教育委員会、市議会教育委員会
稲山山麓学校 千代田市稲山山麓小学校、稲山山麓中学校
〒287-8711 千代田市稲山山麓1丁目1番地
電話 028-273-1111 FAX 028-273-8787
Fax 028-273-8787

ポッチャ部員募集のお知らせ

ポッチャは、年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に遊べるスポーツです。ヨーロッパ生まれの競技で、パラリンピックの正式種目です。

都府県各地域移行組織である「千曲坂城クラブ」では、福岡山崎東中学校の子どもたちを中心として、誰でも参加できる「ポッチャ専門部」を立ち上げることにしました。ポッチャを通して、スポーツに楽しみ、仲間をつくり、可能性をのびてみませんか？

Q 千曲坂城クラブって、なんですか？

A 中学生の部活動を地域へ移行し、千曲市・坂町町に「新たなスポーツ文化芸術環境」をつくろうと発足したクラブです。今年度から活動が始まっています。

Q 稲荷山養護学校の子どもたちも、ボッチャはできるのですか。

A その子の個性に沿ったプレーができます。ボールを投げるのは、立って、座って、ランプという器具を使ってなど様々な方法があります。小学部・中学部・高学部、誰でも入部できます。

Q だれが指導してくれるのですか。

A 千曲市のポッチャ協会会長で、ポッチャ専門部代表の小林京子が中心になり、開催を行います。

Q いつ、どこで練習しますか。

A 月に2回ほど、学校が休みの日に福岡山形高等学校体育館での練習を予定しています。保護者の方と相談して決めていきます。

Q 費用はかかりますか？

A 今年度は、保険料800円です。来年度から年会費3,000円（含保険料）です。

Q 体験できますか？

A 体験会を開きます。まずはやってみましょう！不明な点については、ポッチャ専門部事務局へお問い合わせください。」

体験会 1月21日(日) 2月3日(土) いずれも 午前10時~12時
福岡山手高等学校体育館へ来て下さい(会場に入っていない場合は自己責任にて参観します)

Q 入部するにはどうすればいいですか。

代 表 小林 京子
事務局長 宮坂久美子
(千曲市教育委員)

千曲坂城クラブ ポッチャ専門部
代 表 小林 京子
事務 宮坂久美子
(千曲市教育委員会生涯学習課内)
電 話 273-1111 (内線4133)

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【クラブとして大会参加 剣道専門部】



【近隣のクラブと交流試合を開催 卓球専門部】



【協会主催の千曲カップにクラブ全員が参加 バスケットボール専門部】



【クラブとして大会参加 サッカー専門部】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年

地域移行について検討開始

令和3年～令和4年

関係団体・関係機関への意見聴取・各課との調整

令和4年

設立準備推進会議・運営準備会議開催・設立総会3月

令和5年

各専門部活動開始 休日1回以上クラブに移行

令和6年

休日2回以上クラブに移行 平日クラブ試行開始

令和7年

休日はすべてクラブへ移行 平日も可能なところから移行

令和8年

休日・平日すべて千曲坂城クラブとする(完全移行)

●経過

⇒更埴地区中学校部活動検討委員会で国の方針を確認・共通理解
※千曲市・坂城町が同一歩調で部活動を行うために設置された会
⇒部活動全顧問へのアンケート
○文部科学省地域部活動推進事業研究指定校(長野市裾花中学校)視察

●実施にあたって生じた課題

⇒コロナ禍であったため、会議の開催がなかなかできなかった。また地域移行についてイメージが持ちにくいことがあった。どのように進めていけばよいのか様々な考えがあり調整に苦慮した。

●実施内容、工夫した点 等

⇒まずは地域移行についての考え方を共通理解することを大事に進め、部活動顧問の思いを大事にした。
⇒市教委がリーダーシップをとることとした。

●経過

⇒関係機関・団体等へのヒヤリング及び打ち合わせ
・県教委スポーツ課・スポーツ安全協会
・県中学校体育連盟・スポーツ団体 文化芸術団体・商工会議所
・上田税務署・三井住友生命
・顧問弁護士・千曲市地域公共交通活性化協議会・郡校長会、教頭会 等

●実施にあたって生じた課題

⇒関係各課との協議・調整
⇒総合教育会議・教育委員会定例会・議会等への説明

●実施内容、工夫した点 等

⇒地域移行への理解がなかなか進まない
⇒様々な意見があり調整に苦慮した。
⇒地域移行についての理解が進むよう様々な機会で説明した。市教委で基本案を示し進めた。

●経過

⇒中学校部活動地域移行推進会議設立 令和4年4月～
⇒クラブ運営準備会議 令和4年8月～
⇒更埴地区中学校部活動顧問会 3回
⇒生徒・保護者への説明会
・1、2年生徒※各中学校で実施 5回
・1、2年生保護者※中学校で実施 5回
・新入生保護者※中学校で実施 5回
・新入生 ※小学校で実施 12回
⇒市町の「広報誌」への掲載
・説明動画の配信

●実施にあたって生じた課題

⇒設立総会 令和5年3月
⇒1回の説明ではなかなか理解を得ることは難しい。

●実施内容、工夫した点 等

⇒事務局が基本案を示しながら共通理解を深めた。

●経過 令和5～6年

⇒各専門部の計画に従い、休日・平日ともにクラブへの移行を進めることができた。
⇒新しい専門部(ボッチャ・歴史科学・総合文化)を開設することができた。
⇒持続可能なクラブにしていくための適切な会費について検討を始めた。

●実施にあたって生じた課題

⇒平日の指導者の確保が難しい。
⇒学校施設の施設管理に課題が残った。

●実施内容、工夫した点 等

⇒休日はほぼクラブへの移行の見通しがついた。

●計画 令和7～8年

□令和7年
・休日はすべてクラブへ移行する。
・平日も可能な限りクラブへ移行する。
・年会費、月会費について保護者へ説明する。
□令和8年
・休日平日すべてクラブへ移行する。
⇒持続可能なクラブにしていくためには、予算の確保が最大の課題であり、検討を更に進めたい。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

完全展開までのスケジュール

令和8年度完全展開
休日・平日すべてクラブとする

年度	R5	R6	R7	R8
文部科学省 方針	休日部活動の地域展開に向けた 改革推進期間 (段階的に地域展開)			進捗状況を 検証しさら に改革
千曲坂城 クラブ	休日部活動 月1回以上 クラブ活動	 平日部活動も 可能な限り クラブ活動		部活動を廃 止し、すべ て千曲坂城 クラブ活動 とする
			 休日部活動 はすべて クラブ活動	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 東御市

自治体名：長野県東御市

担当課名：教育課

電話番号：0268-64-5879

1.自治体の基本情報

基本情報

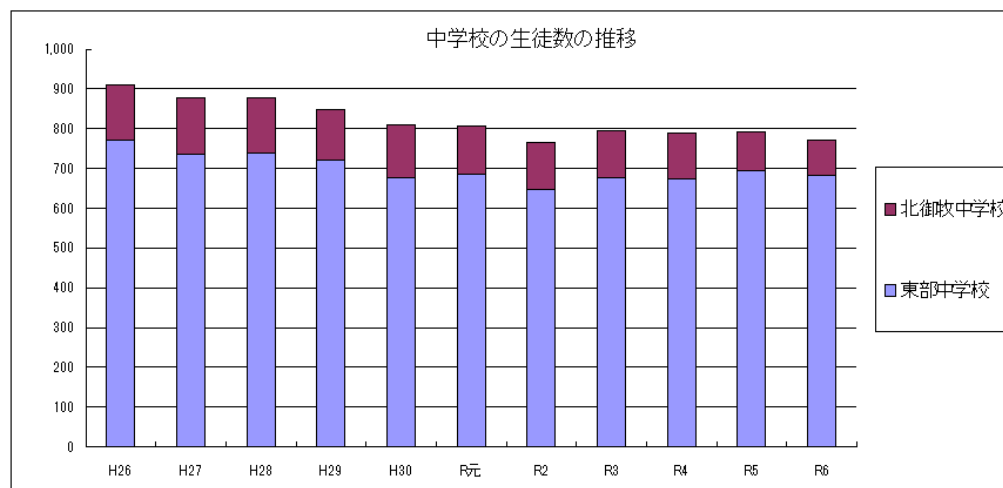
面積	112.37 km ²
人口	28,344 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	772 人
部活動数	25 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

2つの中学校からなる本市では、運動部18、文化部7の計25個の部活動が活動しています。少子化に伴い、学校単独での活動や大会参加が困難になりつつあり、他校との合同部活動で大会に出場せざるを得ない部活動も増えてきています。

本市では、令和5年度に学校、行政関係者で組織する「地域移行準備検討会」を立ち上げ、学校部活動の現状の確認、児童・生徒を対象としたアンケート調査を実施してまいりました。令和6年度からは、学校、行政関係者の他に、小中学校PTA代表、スポーツ協会、文化協会、総合型地域スポーツクラブ、部活動指導員経験者などのメンバーを加えた「部活動地域移行検討会」を立ち上げ、学校、保護者、行政、地域の団体等それぞれの立場で抱えている課題や先行自治体の事例の共有を行い、それを基に今後の方針・取組について議論してまいりました。

部活動地域移行検討会等で出た課題として、「受け皿となる地域クラブや指導者の確保」、「地域のスポーツ競技団体や文化芸術団体の理解促進」、「費用負担などの保護者負担の軽減」などがあります。

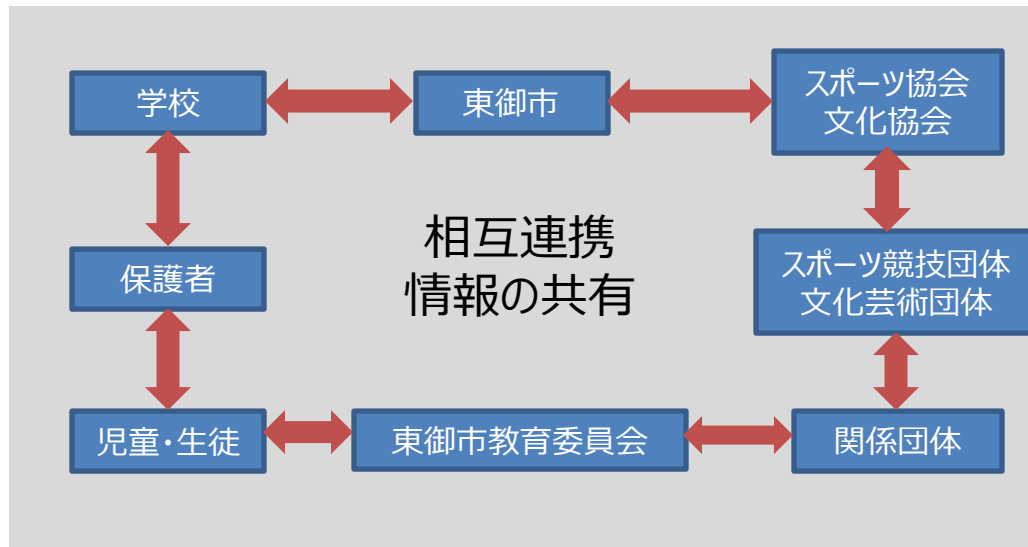


出典：学校基本調査より東御市教育委員会作成

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

部活動地域移行の担当部署として、学校、児童・保護者、スポーツ協会・文化協会、地域のスポーツ競技団体・文化芸術団体等との調整、体制整備等を担います。

◎首長部局

地域のスポーツ・文化芸術活動の振興支援を行います。

◎スポーツ協会・文化協会

地域のスポーツ・文化芸術活動団体との調整、情報提供を行います。

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回東御市部活動地域移行検討会
令和6年8月	第2回東御市部活動地域移行検討会
令和6年11月	・統括コーディネーターの配置 ・小中学校保護者説明会の実施
令和6年12月	・東部中学校新入生説明会参加 ・県総括コーディネーターと意見交換
令和7年1月	・サッカーの地域クラブ試行実施 ・県・市町村総括コーディネーター会議 ・児童・生徒用リーフレット配布
令和7年2月	・北御牧中学校新入生説明会参加 ・小中学校保護者に対し説明動画を配信
令和7年3月	第3回東御市部活動地域移行検討会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
東部中学校	CEREJA 東御	東御市スポーツ協会	サッカー	・平日 0回 ・休日 3回	13:00～ 15:00 (1回目) 9:00～ 11:00 (2・3回目)	2年生 6人 1年生 5人	1月18日 1月25日 2月1日	3人	4人	3,000 円 /月額	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 東御市スポーツ協会に加盟する東御市サッカー協会が運営主体となって地域クラブを設立しました。
- 東御市サッカー協会は、1977年に東部町サッカー教室をはじめ、2010年に東御ジュニアフットボールクラブ（小学生部門）を発足しました。
- クラブチームではありますが、中体連主催の大会にも出場を予定しています。（令和7年度以降）
- クラブチームとして規約を作成し、適切な運営に努めていきます。



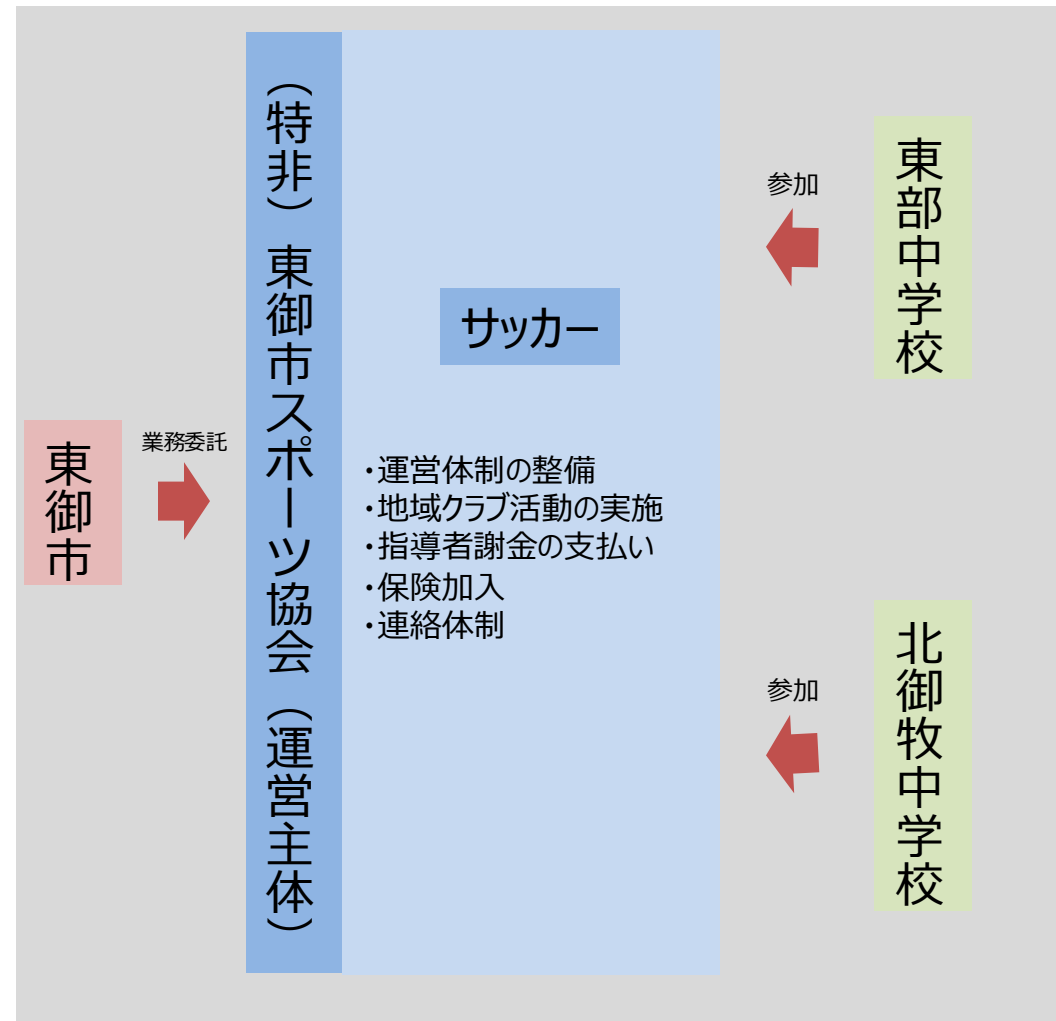
2.実証内容と成果

主な取組例

●CEREJA東御 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	東御市サッカー協会
期間と日数	1月18日（土） 1月25日（土） 2月1日（土）
指導者の主な属性	東御市サッカー協会に所属
活動場所	東御市立東部中学校グランド
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	36,000円（程度） ※令和6年度は無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 ※令和6年度は公費負担

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

●部活動の地域移行を円滑に進めていくため、児童生徒や学校、保護者、地域クラブなどと連絡調整等を担っていただくための統括コーディネーターを2名配置し、体制が整っている種目から順次、先行モデルとして地域移行を試行的に実施していきます。

●先行モデルとなった地域クラブの指導者謝金や生徒・指導者の保険料を予算の範囲内で公費負担していくことで、地域クラブや各家庭の負担軽減につなげていきます。

取組の成果

●本市のスポーツ協会などで競技運営に精通し、後進指導の実績のある方と、中学校の部活動に精通し、かつスポーツチームの指導経験が豊富な元中学校教員を統括コーディネーターとして配置したことで、地域クラブの運営主体や指導者の確保がスムーズに進み、先行モデルとしてサッカーの地域移行を試行的に実施することができました。

●指導者謝金や生徒・指導者の保険料を予算の範囲内で公費負担することで、スムーズな移行につなげていくことができました。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 学校や行政等と連絡調整を実施
- 各競技団体に、受け入れ体制の整備や指導者の確保についての働きかけを実施
- 週1回程度の統括コーディネーター会議において、情報共有を実施

今後の課題と対応方針

先行モデルケースで得られたノウハウや課題を活かしながら、統括コーディネーターが中心となり、他の部活動の種目や活動に波及するように取り組んでいきます。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

●保護者の方に費用負担が発生すること、場合によっては送迎が必要になることなどをご理解いただくため、保護者説明会を実施します。

●児童・生徒に対しては、リーフレットを配布し、部活動の地域移行の周知を行います。

取組の成果

●11月に小中学校の保護者を対象に対面で説明会を実施しました。また、中学校の新入生説明会に参加し、現時点での方向性やスケジュールについて説明しました。また、説明用動画を作成し、保護者に対して配信していくことで、広く情報発信に取り組みました。

●部活動の地域移行の影響を受けるであろう小学生高学年用に、わかりやすい表記や内容でリーフレットを作成し、周知を行いました。

●部活動地域移行のニーズや意識、要望等を把握するため、保護者、教員を対象としたアンケートを実施し、それぞれの立場での考えや課題を見出すことに努めました。



児童・生徒用リーフレット

説明会等の実績

令和6年11月23日（土・祝）	小・中学校保護者説明会 @東御市勤労者会館
12月3日（火）	東部中学校新入生説明会 @東部中学校
令和7年1月29日（水）	児童・生徒用リーフレット配布
2月14日（金）	北御牧中学校新入生説明会 @北御牧中学校
2月21日（金）	説明用動画配信

今後の課題と対応方針

●児童・生徒や保護者とも情報共有するためにも、市のホームページや広報などを活用しながら、情報発信に努めていきます。

●アンケート結果を東御市部活動地域移行検討会等で分析し、今後の取り組みに活かしていきます。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

児童・生徒や学校、保護者、地域クラブなどと連絡調整等を担っていただく統括コーディネーターを配置し、地域のスポーツ競技団体等に働きかけを行っていきました。

統括コーディネーターを中心とした調整の結果、地域クラブのサポートのあるサッカーをモデルケースとして、試行的に地域移行に取り組みました。

また、児童・生徒や保護者に部活動地域移行をご理解いただくため、保護者説明会を実施したり、説明用動画を配信したりするなど、情報発信に努めました。

●成果の評価

統括コーディネーターが中心となって、地域クラブの運営主体や指導者の確保、学校との連携、生徒や保護者への説明などを実施し、サッカーをモデルケースとして試行的に地域移行に着手することができました。先行モデルケースを行う中で、ノウハウを得えたり、課題を発見したりすることができました。

また、児童・生徒や保護者に対して、市ホームページや広報、説明会、リーフレット配布、動画配信などで、情報発信を行うことで、部活動地域移行についてご理解いただくとともに、保護者、教員に対してアンケートを実施することで、部活動地域移行に関するニーズや意識、要望等を把握することができました。

●今後に向けて

児童や生徒がスポーツ等に親しめるように、先行モデルケースで得られたノウハウや課題を活かしながら、統括コーディネーターが中心となり、他の部活動の種目や活動に波及するように取り組んでいきます。

また、アンケートを結果を踏まえ、地域移行がスムーズに進むよう適切な措置について検討を進めていくとともに、市ホームページや広報などを活用しながら、情報発信を続けていきます。

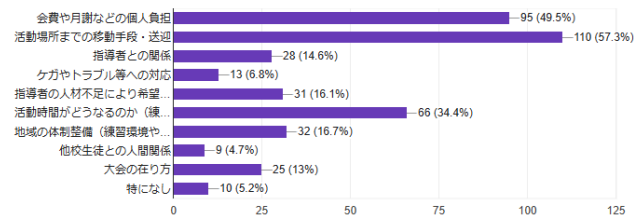
2.実証内容と成果②

アンケート結果

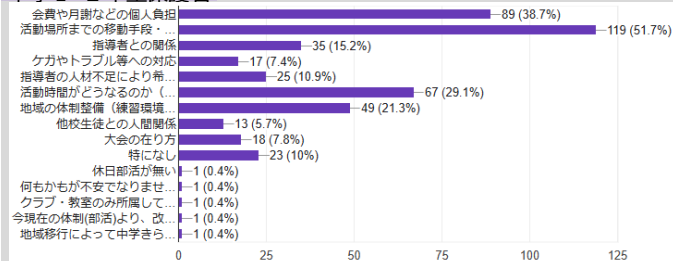
●アンケート結果（一部抜粋）

Q.「休日」の学校部活動が地域移行された場合、不安や心配に思うことを教えてください

小学5・6年生保護者

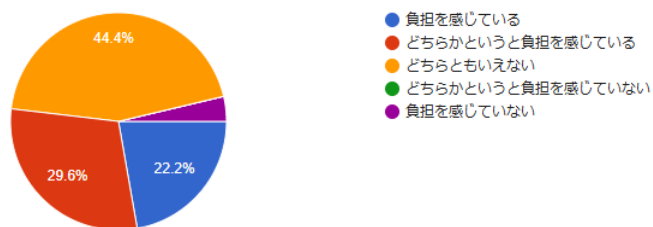


中学1・2年生保護者



Q.現在担当している部活動に負担を感じていますか。？

中学校教師



●保護者アンケート自由意見（一部抜粋）

生徒の移動や送迎に関すること

- 自宅から離れた場所で活動するとなると送迎が必要になる。
- 特に平日について、これまで（部活動であれば）放課後の時間帯に活動できていたが、地域移行になると、夜間の時間帯での活動になり、活動場所までの送迎が必要になる。 など

会費や保険料など費用負担に関すること

- 金銭的な負担が増えないか不安
- 家庭環境によっては、スポーツや文化芸術活動を諦めざるを得ない生徒が出てしまうのではないかなど

地域クラブの運営体制に関すること

- 勝利至上主義により、行き過ぎた指導になってしまうのではないかなど
- これまでの部活動から活動時間が大幅に増えてしまうのではないかなど

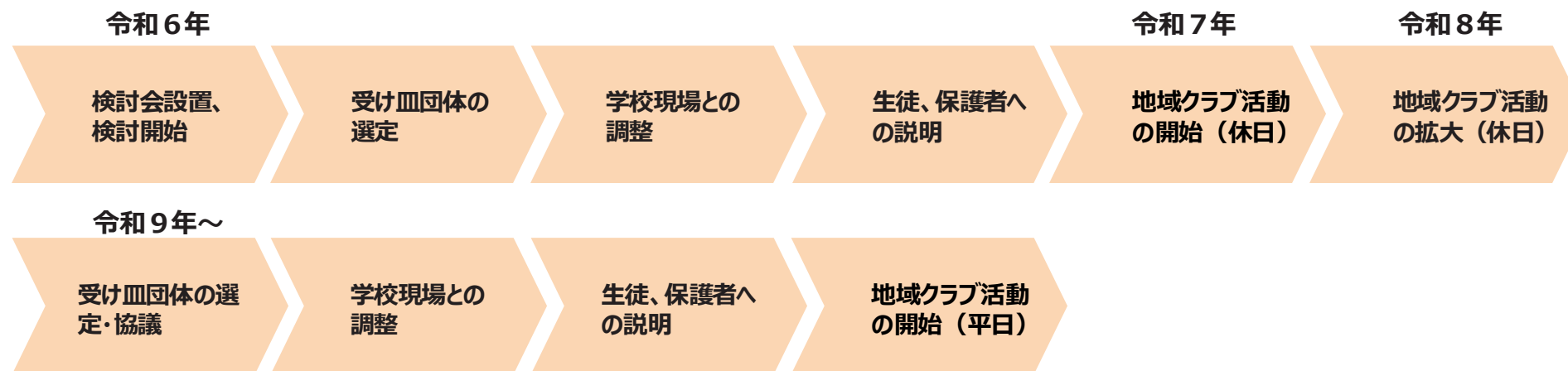
指導者の資質に関すること

- 体罰やパワハラに関する指導が適切になされるかなど

10

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

東御市教育委員会、東御市スポーツ協会、東御市サッカー協会（CEREJA東御）

●経過

統括コーディネーターを通じて受け皿団体を探し、東御市サッカー協会にて引き受け出来ることとなった。

学校関係者（校長・顧問）を交え、関係者会議を実施し、受け皿団体について聞き取りおよび地域移行に向けたすり合わせを実施。

学校主催でサッカー部保護者・生徒を対象とした学校・サッカー協会の説明会を実施。

その後、地域移行を開始した。

●実施にあたって生じた課題

保護者・生徒への説明から実際の移行に至るまでの期間が短く、移行後に保護者等から「性急すぎたのではないか」との意見が寄せられた。

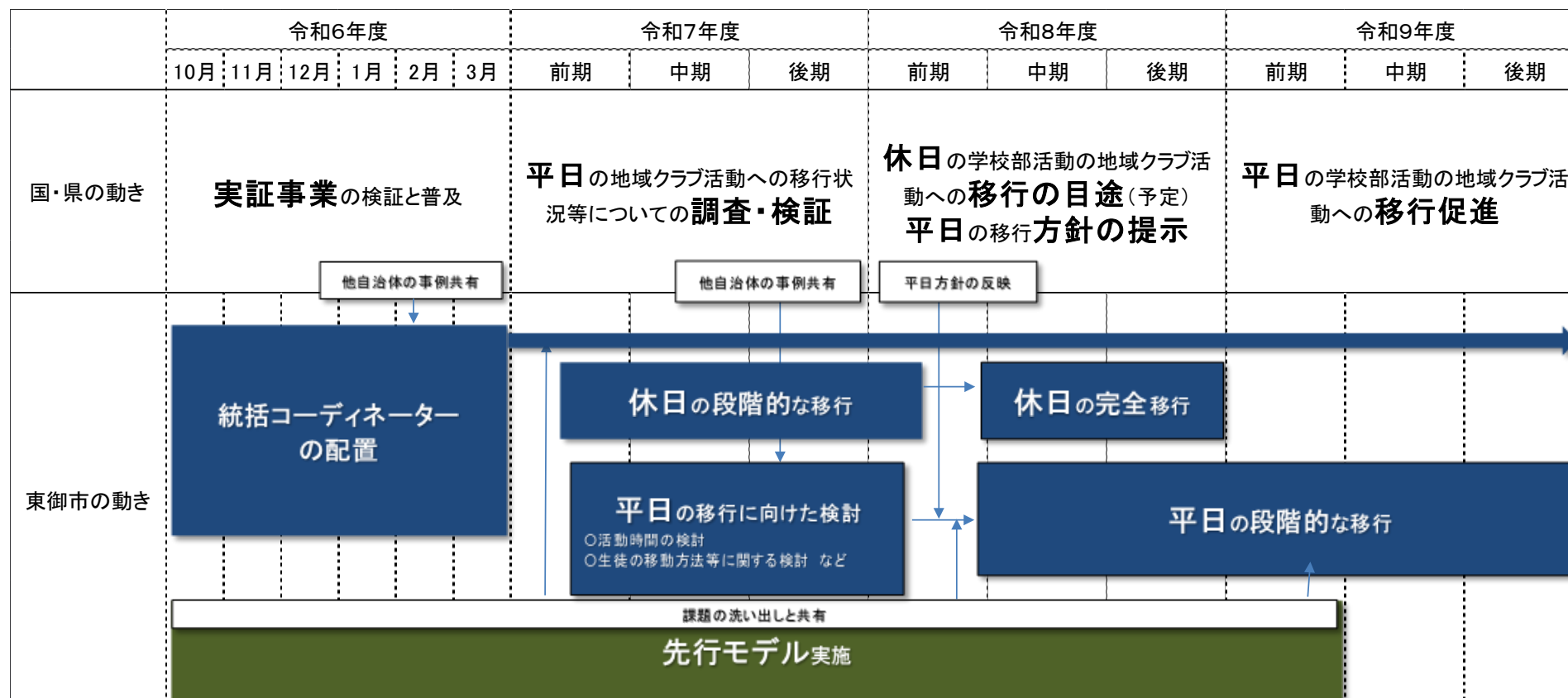
●実施内容、工夫した点 等

保護者・生徒に対する説明会のほか、体験会を実施した。

受け皿団体と学校との調整の場を設けることで、互いに疑問点を解消したうえで事業を進めていった。

3.今後の方向性（予定）

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 佐久穂町

自治体名：長野県佐久穂町

担当課名：こども課

電話番号：0267-86-4940

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	767.42 km ²
人口	21,625 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	507 人
部活動数	23 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和5年4月に「南佐久郡中学校部活動運営委員会」を設立済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	作成中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

南佐久郡（佐久穂町、小海町、北相木村、南相木村、南牧村、川上村）は、中山間地にあり、標高の高さを生かした高原野菜などの産地となっている。6町村は以前から様々なことを連携して行ってきた実績を持つ。

部活動の地域連携においては、令和2年の教育委員と学校長の研修会で中学校の現状が発表されたことをきっかけに、教育委員会・学校・部活動の保護者会で存続の検討が始められた。その結果、令和5年4月に運営委員会が立ち上がった。ここが中心となり、単独では大会に参加できないチームスポーツを中心に、拠点校方式に

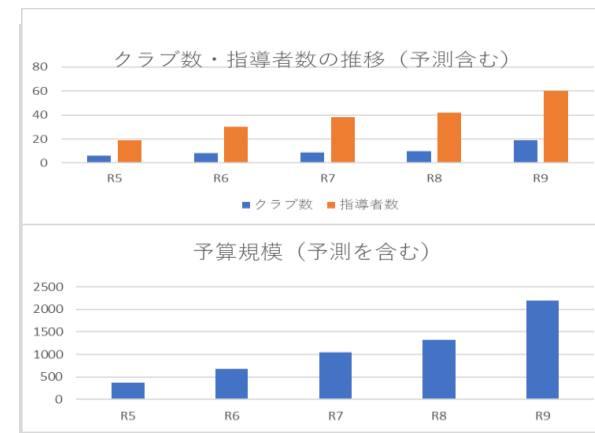
よる合同部活動が開始された。保護者に負担を求めないことを目標として2年間活動をしてきた。

今後、令和9年度を目標に、休日における部活動の地域移行を完全実施する計画を立てている。ここで、課題となるのが予算規模の大幅拡大である。試算では、本年度の4倍のお金が必要となる。歳入面では、6町村の負担金に頼っているが、現在の4倍のお金を負担していただける見通しは持っていない。そこで、保護者負担を求める方向で、説明会などを開催している。アンケートの結果から、保護者負担に対する理解が進んできていると思われる。

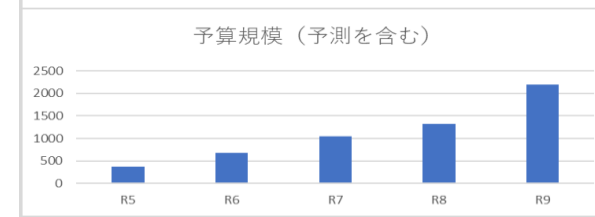
南佐久郡中学生数の推移



クラブ数・指導者数の推移（予測含む）



予算規模（予測を含む）



スポーツ

年間の事業スケジュール

[illegible]

- ・予算の確保（安定的に継続して事業運営をするための町村負担金の確保）
- ・地域住民の意思の反映（町村負担金の必要性について地域住民との合意形成）
- ・学校施設や町村所有バスの利用についての合理的配慮

令和6年5月
令和7年2月

各校部活動運営委員会で
現状及び今後の展開の説明

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	9 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9 クラブ（8 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	3 8 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
サッカークラブ	南佐久郡中学校部活動運営委員会	サッカー	月 2 回	午前中 3 時間	1年：11人 2年：17人 3年：7人	5 月から 翌年 2 月	中学校グラウンド	7 人	1人（内、兼務 1人）	年会費 0 円	その他：地域 クラブ
女子バレーボールクラブ	南佐久郡中学校部活動運営委員会	バレーボール	月 2 回	午前中 3 時間	1年：5人 2年：5人 3年：10人	5 月から 翌年 2 月	中学校体育館	4 人	1人（内、兼務 1人）	年会費 0 円	その他：地域 クラブ
男子バスケットボールクラブ	南佐久郡中学校部活動運営委員会	バスケットボール	月 2 回	午前中 3 時間	1年：8人 2年：10人 3年：8人	5 月から 翌年 2 月	中学校体育館	5 人	1人（内、兼務 1人）	年会費0 円	その他：地域 クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 開催実績はない

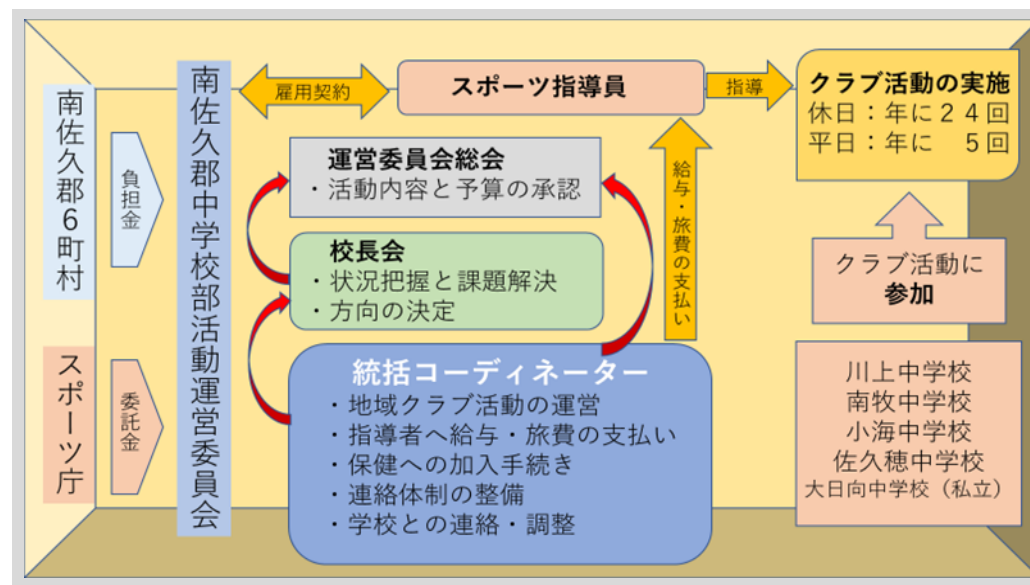
2.実証内容と成果

主な取組例

●南佐久郡クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、男子バスケット、女子バスケットA、女子バスケットB、男子バレー、女子バレー、卓球、陸上、柔道
運営団体名	南佐久郡中学校部活動運営委員会
期間と日数	全ての種目が同じように実施 5月1日～2月28日 月に2回程度、年に24回をめぐに
指導者の主な属性	教員（兼職兼業）、部活動指導員、地域の指導者
活動場所	学校施設、公民館、公共の施設
主な移動手段	保護者による車での送迎、JR小海線
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括コーディネーター

役割 ・会議の開催及び運営 ・お金の管理（指導者への給与・旅費の支払い、消耗品の購入・管理、スポーツ安全保険への加入手続き、保護者への補助金支給、国税の納入） ・書類作成及び管理（指導者から提出された書類の確認・報告書などの作成） ・視察や講演依頼への対応 ・保険金支払いへの対応 など ・源泉徴収票等の作成

●指導者 役割 ・生徒への指導 ・活動実績の提出

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

南佐久郡中学校部活動運営委員会総会及び郡教育長会において報告。6町村の教育長に現状や課題を理解してもらい、各町村の関係者に運営委員会への協力を呼び掛けていただいた。

各校で実施される部活動運営委員会に出席し、保護者に対し地域移行についての理解と協力を求めた。

指導者打ち合わせ会において、子どもたちが主役となる指導の徹底について共通理解を図った。

取組の成果

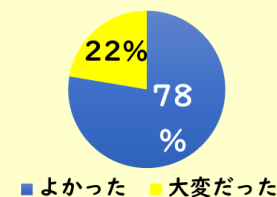
各町村の教育長との連携を密にすることで、それぞれの首長の理解を得て、令和7年度における負担金の増額を認めていただくことができた。

各校での部活動運営委員会に参加し、保護者からの生の声を聴くことができ、それを運営に生かすことができた。例えば、拠点校に固定していた練習場所を変更し、時には他校を練習場所にすることで、送迎の負担に偏りがないようにした。

指導者打ち合わせ会において、「指導の心得」の徹底を呼び掛け、生徒にとって楽しく有意義な活動ができるようにした。生徒へのアンケートから、休日・平日の練習に満足しているという回答が約8割寄せられた。また、合同チームで大会に参加したことについても8割以上が満足であると回答した。

アンケートから 【生徒】

質問1 休日の合同練習に参加してどうでしたか



アンケートから 【生徒】

質問3 大会に南佐久中学校合同チームとして参加したことはどうでしたか



コーディネーターの具体的な動きの実績

○会議、研修会の開催：南佐久郡中学校部活動運営委員会総会2回、校長会11回、指導者研修会及び打ち合わせ会2回 ○会計事務：保険加入手続き、消耗品等の支払い、指導者への給与及び旅費の支払い ○視察・講演への対応：視察対応14回、講演7回 ○部活動運営委員会での説明8回、教育長会での説明1回

今後の課題と対応方針

令和9年度の休日における地域移行の完全実施に向け、そのプロセスを関係者全員に周知できるような取り組みをしていく。指導者・保護者と直接話をする機会をとり、分かりやすく伝えることと同時に不安に思うことを出してもらい、解決策を共に考えていくことが大切である。そのためにも、全員にすぐ伝わる連絡網などの整備をしていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○各中学校において、専門的な知識や技能、やる気のある職員への声かけ。部活動指導員への声かけ。コーチ経験者、スポーツの指導者への声かけを行い、人材を確保した。

○運営委員会による研修会を開催し、県指導主事からコンプライアンスを含む指導全般についての講義を受けた。

人材バンクの人数

本委員会では人材バンクを作成していない。

人材バンクの年齢構成

長野県作成の人材バンクでは、南佐久で指導できる人材は2名で、20代と40代の方である。

登録者属性

長野県から情報をいただき、人材バンクの登録者を確認した。

県人材バンクには200名を超す方が登録している。その中で、南佐久地域での指導のできる方は2名。

種目

対象となる2名の方が指導できる種目はバスケットボール。

1人はすでに指導にあたっていただいている方である。

資格有無

2人ともJBA公認D級コーチの資格を持っている。

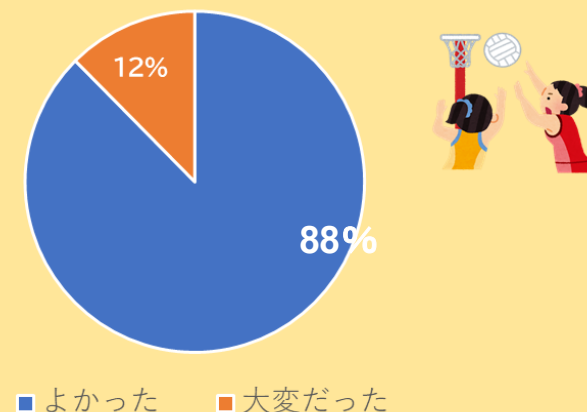
バスケットボールについては、今のところ指導者が足りているので新たに声はかけていない。

取組の成果

参加した中学生を対象にしたアンケートによると、88%の生徒が指導者の指導の仕方について「よかった」と評価している。

その理由について、「丁寧に教えてもらい分かりやすいから」「より高いレベルの指導を受けられるから」「いつも意識しているところをさらに詳しく教えてもらえるから」「テクニックについて分かりやすく教えてもらえるから」などがあがっていた。一方、「指導の仕方が厳しい」と感じた生徒がいた。生徒たちの経験の違いを把握して、そのことをより意識した指導を心がけていきたい。

他校の先生や地域の指導者の指導について



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

県スポーツ振興課の指導主事を講師に、「指導者としてのマインドセット」と題して講演会を実施した。

内容は、①「安全管理」、②「意識 視点 言葉」、③「ハラスメント」の3点である。

「安全管理」については、活動前・直前・実施中・終了後の時系列におけるポイントについてお話を伺った。「意識 視点 言葉」については、『可能思考』を育てることの大切さを学んだ。「ハラスメント」については、指導者の主観的な指導方法にも原因があることを知り、「プレイヤーズセンター」を大切にし、子どもたちの成長をサポートしていくことの大切さを学んだ。最後に、セルフチェックシートで自分の特性を知り、今後の指導に生かしていくことを確認した。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和7年2月 22日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 30人

当日は、3つの部活動で大会があり、全員が参加することはできなかった。しかし研修会が午後開催だったため、試合が終了したところで途中から参加した指導者がいた。

受講者の声

- ・指導者として、知るべきことや考えるべきことを改めて勉強するよい機会であった。
- ・研修について、大変勉強になりました。子どもたちの「やりたい」を叶える部活にするよう、心がけていきたいと思います。
- ・子どもを中心に据えて伸ばしていくことの大切さがよく分かりました。
- ・選手が目指すところへ行けるよう、指導者・保護者が一体となって成長できるよう努めていきたいと思います。
- ・自分の姿を振り返るよい機会となりました。
- ・今までの経験に頼る指導から、子どもたちを中心に共に学んでいく指導に変えていけるよう努力したいと思います。
- ・ハラスメントにならないよう、日頃の指導を見直していきたいと思います。

今後の課題と対応方針

指導者を一同に集め、複数回の研修会を実施することは難しい。南佐久は、教員が主体の指導体制であり、「ハラスメント」等については、各校で研修が行われている。新たな方法で、必要な内容を必要な指導者が受講できるようなシステムがあるとありがたい。有料のものには手が出しにくいので、国でビデオを作成していただき、無料で配信できるようなシステムがあるとありがたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

「保護者負担無し」を掲げて事業をスタートし2年目が終わる。この間は、各クラブの活動回数を年間24回と少なく設定したため負担無しでの運営ができた。しかし、来年度には実施回数を多くする。そのため、保護者の意識調査を行い、結果をもとに各校での説明会を開催し、次年度からの負担に理解を求めた。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

南佐久郡中学校部活動運営委員会は、教育委員会内に設置されており、事務所開設やパソコン等の費用は新たに発生していない。そのため、イニシャルコストについては考慮する必要がほぼない。

■ランニングコストの分析

来年度は、年間活動回数を24回から40回に増やす。そのため、指導者への給与・旅費が大幅に増えることが予想される。また、地域移行に参加するクラブ数が増加する可能性があり、本委員会独自の取組としてのJR小海線の利用補助が増額する可能性がある。

町村からの負担金は増額の見込みだが、支出を減らすため、保険料は保護者負担としたい。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

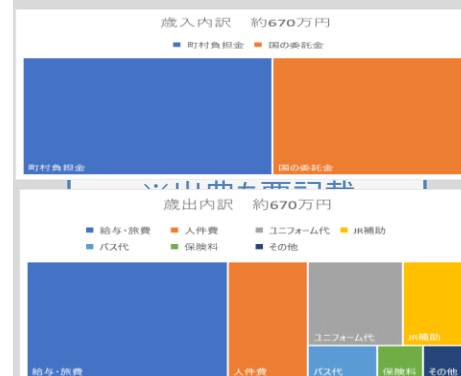
令和6年度支出割合



令和7年度は活動実施回数を本年度の1.7倍に増やす。そのため、指導者謝金の割合がぐっと増えることが予想される。町村からの負担金を本年の2倍にさせていただくめどがだったが、保護者負担を少しずつお願いしていく予定で、次年度は保険料の負担をお願いすることになっている。

収支バランス

令和6年度歳入と歳出の内訳



本年度の収支バランスは良好である。昨年度分の国からの委託金があったため、ユニフォーム代を支払うことができた。また、保護者負担なしで運営することができた。来年度はユニフォーム代はいらないが、指導者への給与・旅費が増額するため、歳出割合が変わってくる。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

本年度は、来年度以降に発生する保護者負担について、説明し了解していただく年とした。5月と翌年2月に行われた各校の「部活動運営委員会」に統括コーディネーターが参加し、本地域における部活動の地域移行について、進捗状況並びに今後の課題について話をした。2月の委員会では、右図にあるアンケート結果を示し、来年度からの保護者負担についてお願いした。すべての中学校において、このことを了解していただいた。アンケートでは、253人の保護者から回答を得、97人から月謝の金額は3,000円程度でよいという答えをいただいた。2,000円以内という回答が大半を占めると予想していたが、それより多い金額を選んでいただいたことに驚いている。このことをもとに、来年度は保険料を、令和9年度の休日移行完全実施の年からは月謝をいただくという方向が確立できた。このことにより、事業継続の見通しが持てるようになった。

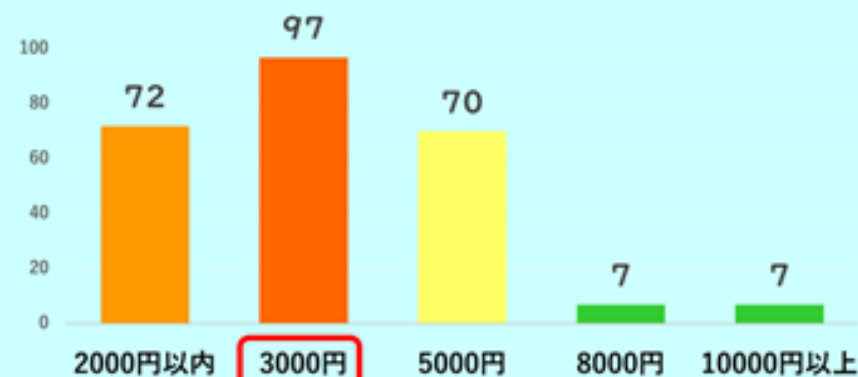
今後の課題と対応方針

本委員会では、長野県から示されている移行予定を受け、令和9年度からは全ての部活動において休日の地域移行を実施する予定である。

そうなった場合の予算規模は、本年度の4倍になると予想している。令和7～8年度については、移行期間として徐々に活動回数を増やし、予算規模を拡大していくように計画している。

保護者アンケートの結果から：数字は人数

質問7 許容できる月謝の金額（最もあてはまるもの）



町村に対しては、この状況をシュミレーションした予算案を提示し、予算の増額をお願いしている。しかし、限界はある。そこで、令和9年度からは、保護者から月謝をいただき、スムーズな運営ができるように協力していただくよう考えている。説明会における保護者の反応は良く、月謝制度がうまくスタートできるのではないかと期待している。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は9つのクラブが休日における地域移行を実施した。予算の関係上、月に2回程度、年に24回以内の活動となったが、各クラブで計画的に進め、充実した活動ができた。

運営委員会という組織での活動であるが、状況を把握し次に進む方向を考えているのが校長会である。コンパクトなこの会で様々なことを決定し、それを教育長を通して各町村に伝え、校長を通して各学校での実践に活かしている。校長会がうまく機能しているため、広域での連携がスムーズにできている。

指導者については、教員が主体の体制が続いている。そんな中、柔道クラブが教員無しで立ち上がったことは、今後のモデルケースとなる。ただ、教員の手を借りなければ成立しない地域であるため、謝金面で手厚くしていきたい。

今後、全部の部活動が休日に地域移行することを考えると、予算の急激な増額が必要となる。保護者負担をお願いするにあたっては、今から理解をしていただくことが大切であり、部活動運営委員会へのコーディネーターの参加は、その大きな一歩となった。

●成果の評価

南佐久における課題は、毎年大きく変わるわけではない。今年度は記載したような成果が得られたものの、まだ途中経過に過ぎない。これからも継続して地道にこれらの課題に向かっていくことで、持続可能な運営を行っていきたい。

部活動運営委員会に参加させていただき、ある中学校で、「来年度の本校への入学者は18名です。」という数字を知ることができた。「え、そんなに少ないの？」というのが率直な感想である。このように少子化の進む中、郡内の4校が集まってもなお成立しなくなる種目が出てくるのではないかと危機感を覚える。

「子どもたちが、やりたいスポーツをできるようにしたい。」との願いから始まったこの事業が、その趣旨を貫きながら継続していくことを目指し、保護者や地域の方の理解を得、運営を進めていきたいと考える。

●今後に向けて

上記のように、この活動を続けていくことが今後に向けての課題である。具体的には、「各クラブが成立し、やりたい活動に生徒が参加できること」、「十分な予算を得て、余裕ある運営ができること」があげられる。

予算について、来年度は活動回数を大幅に増やすため、町村からの負担金を倍増していただくことになっている。令和9年度の完全実施時には、さらに大幅増となり、保護者負担をお願いすることになる。この場合の保護者負担が大きくなりすぎないように、国からの補助金の継続と増額を期待したい。持続可能な活動とするため、みんなで力を出していく必要がある。国がその先頭に立っていただけるとありがたい。

2.実証内容と成果②

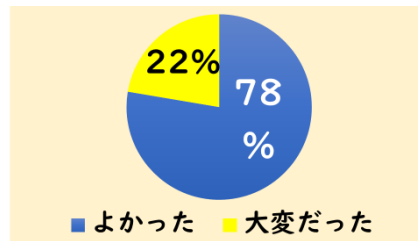
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.休日の合同練習に参加してどうでしたか？

アンケートから 【生徒】

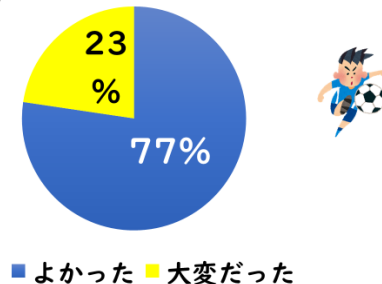
質問1 休日の合同練習に参加してどうでしたか



Q.平日の合同練習に参加してどうでしたか？

アンケートから 【生徒】

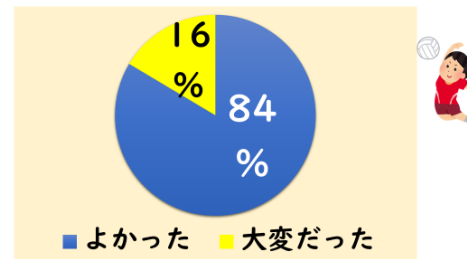
質問2 平日の合同練習に参加してどうでしたか



Q.大会に南佐久中学校合同チームとして参加したことはどうでしたか？

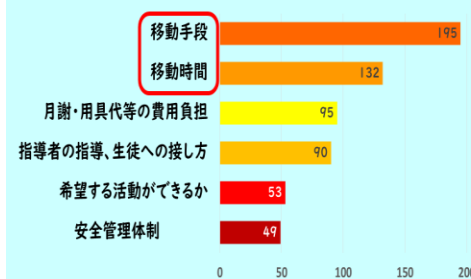
アンケートから 【生徒】

質問3 大会に南佐久中学校合同チームとして参加したことはどうでしたか



Q.不安に感じていることは何ですか？

質問8 不安に感じていること(保護者)



●参加者の声

中学生

・人数が多くて練習が楽しい ・つながりができ、友達が増えた ・いつもならできない練習ができる ・いろいろな練習方法を学ぶことができる ・もともと敵同士だった人が仲良くなれた

中学生

・チームの層が厚くなった ・大会でいい結果が出せた
・合同チームになったからこそ大会に参加することができた
・他の学校の選手を見てたくさん学ぶことがあった

中学生

・休日だけで足りないところがあったのでよかった ・チームが強くなった ・チームが一層仲良くなり、プレーの幅が広がった ・たくさんの人数で、質の高い練習ができた
・時間が増えて、チームがもっと成長できた

保護者

・練習場所が遠い場合、冬の期間積雪が多い場合など送迎できない事もある ・送迎のための労働、移動時の運転(往復1時間半)は、子供の為と思ってはいても相当しんどい

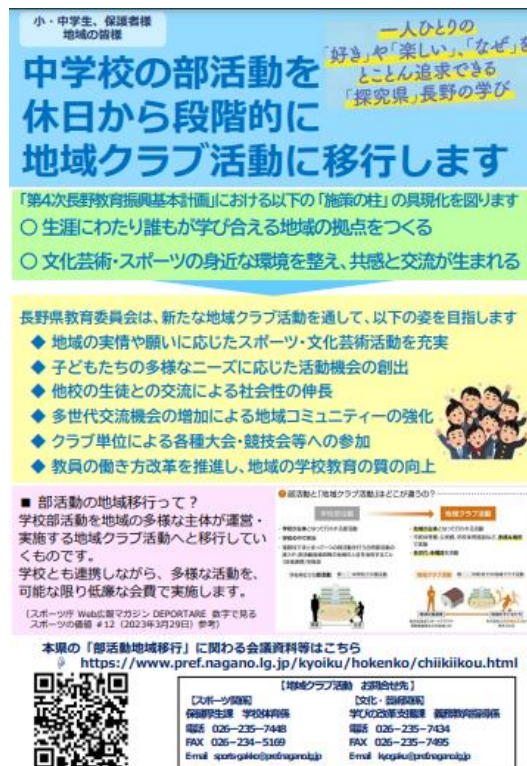
2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

南佐久郡からのチラシはない。

保護者に対し地域移行についての理解を得るため、長野県が作成したチラシを全家庭に配布した。

アンケートについては、生徒・保護者・指導者を対象に実施した。結果については各校で実施された部活動運営委員会の場において、その一部を引用する形で、説明の際に使用した。



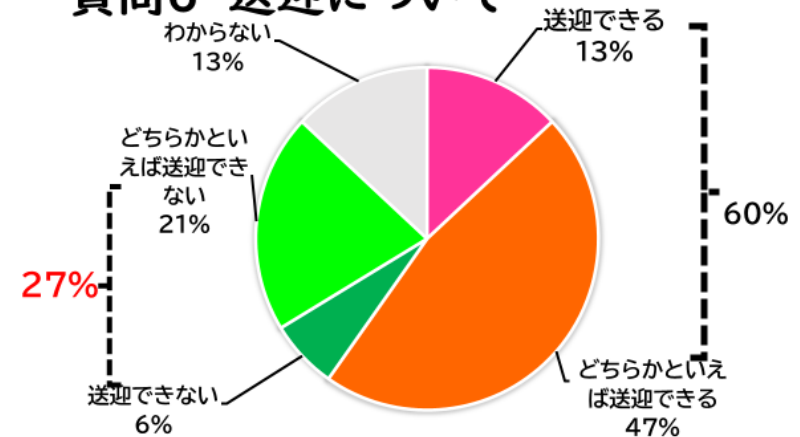
【県から出されたチラシ】

出典:長野県教育委員会保健厚生課、学びの改革支援課

《今後の課題》

アンケートから【保護者】

質問6 送迎について



【アンケート結果】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【サッカー部 天然芝グラウンドでの練習（平日試行）】



【女子バスケットボール】



【平日部活動 町バスを利用時の移動】



【大会参加の様子（男子バスケット）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年

単独校での大会参加が困難になる
対応開始

合同部活動実施に関する学習
課題の洗い直し

令和4年

南牧中学校をモデルとして地域移行を試行

「南佐久郡中学校部活動運営委員会」の立ち上げを決定

令和5・6年

地域クラブ活動の本格実施

令和7年

地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

学校関係者 教育委員 教育長

●経過

各校チームスポーツにおいて、単独校での大会参加が困難になる。PTA会長から広域での活動が提案される。教育委員の会議で学校長から部活動の実態が発表される

●実施にあたって生じた課題

大会参加や部活動の存続が難しい状況になってきたが、各校での問題としてとらえていた。

●実施内容、工夫した点 等

教育長会や校長会で各校の実態を共有し、合同で行える部活動について考え始めた。

●ステークホルダー

南牧村 村費職員をコーディネーターに

●経過

各校の実態把握、生徒・保護者へのアンケート実施、合同練習会の試行

●実施にあたって生じた課題

地域移行を実施するにあたっての学校職員の意識統一：粘り強く話し合いを実施

●実施内容、工夫した点 等

地域スポーツクラブ活動体制整備事業への申請と4種目45人による合同部活動の実施。次年度から本格実施するための体制づくり。

●ステークホルダー

南佐久郡中学校部活動運営委員会
統括コーディネーター 指導者

●経過

4月に運営委員会を立ち上げ、統括コーディネーターを置いた。地域クラブ活動の本格的な実施。

●実施にあたって生じた課題

指導者への謝金をどのような形で支給するか。教員主体の指導体制の中でどのように地域指導者を確保するか。

●実施内容、工夫した点 等

指導者と雇用契約を結び給料として支払いをすること。部活動指導員やコーチ経験のある地域指導者への声かけ。

●ステークホルダー

指導者 統括コーディネーター

●経過

本年度から、休日における活動回数を40回に増やす

●実施にあたって生じた課題

予算の確保について

●実施内容、工夫した点 等

令和6年度中に各町村に対して次年度からの活動拡大を伝え、負担金の増額をお願いした。運営委員会で作成した予算案を、教育長を通して各町村の首長に説明し理解を得ることができた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

南佐久郡中学校部活動運営委員会 部活動地域移行のスケジュール

年度	2022年度（R4）	2023年度（R5）	2024年度（R6）	2025年度（R7）	2026年度（R8）	2027年度（R9）
南佐久郡6町村	南牧村を中心に 合同部活動の試行	南佐久郡中学校部活動運営委員会による部活動の実施				
		コーディネーターの設置（令和5年度から）				
	前半：アンケート実施					
	11月～2月まで 拠点校方式による 合同部活動の実施	休日における部活動地域移行の実施				
		休日の活動回数：24回		休日の活動回数：40回		保護者負担の 開始
	実施種目 卓球 サッカー 男子バスケット 女子バスケット	夏季大会：6部活 卓球 サッカー 男子バスケット 女子バスケットA 女子バスケットB 男子バレーボール		・単独では大会に参加できないチームスポーツを中心に、 地域移行を進める。 ・各校が単独でできる種目については、従来通りの部活動 として続ける。		
	参加校 川上中学校 南牧中学校 小海中学校 佐久穂中学校	新人戦から8部活に 女子バレーボール 陸上 が 加わる		平日における部活動地域移行の 試行 R8年度までは、大会前の5日間で 試行		休日における 部活動 地域移行の 完全実施
	川上村 南牧村 小海町 南相木村 北相木村 佐久穂町					

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県 富士見町原村

自治体名：長野県 富士見町 原村

担当課名：富士見町教育委員会生涯学習課 原村教育委員会生涯学習課

電話番号：富士見町 0266-62-2400 原村 0266-79-7950

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	188.02 km ²
人口	21,546 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	545 人
部活動数	22 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和6年度、富士見中学校・原中学校の運動部活動は、富士見中学校が、陸上競技部、サッカー部、野球部、男女バスケットボール部、男女バレーボール部、卓球部、男女ソフトテニスの10部活、原中学校が、陸上競技部、サッカー部、野球部、男女バスケットボール部、男女バレーボール部、の7部活が活動している。

サッカー部は、富士見中学校・原中学校ともに、部員数減少に伴い単独ではチームが組めない状況である。そのため、中体連大会では、富士見中学校・原中学校の合同チームで参加している。

野球部は、原中学校は10名の部員の内、8名が隣接する市町村のクラブチームに参加している。中体連大会には、両中学校がぎりぎりの人数で参加している現状である。また、サッカー部については、両中学校が単独で中体連大会に出場できなくなり、すでに合同チームで中体連大会に出場している。このような観点から令和6年度から富士見町・原村での広域連携での部活動の地域クラブ活動への移行を推進している。

両町村は少子化に伴い、部活動の運営が難しくなっている。富士見町と原村の出生数の推移を比較すると、富士見町では、平成27年は117人だったのが、令和4年49人、原村は平成27年72人だったのが、令和4年は41人となっている。（出典：「統計ふじみ」「原村の統計」）長野県の休日部活動の地域クラブ活動への移行指針である令和8年度末までの完全移行に向けて、教職員の働き方改革の推進とともに地域移行を進めている。

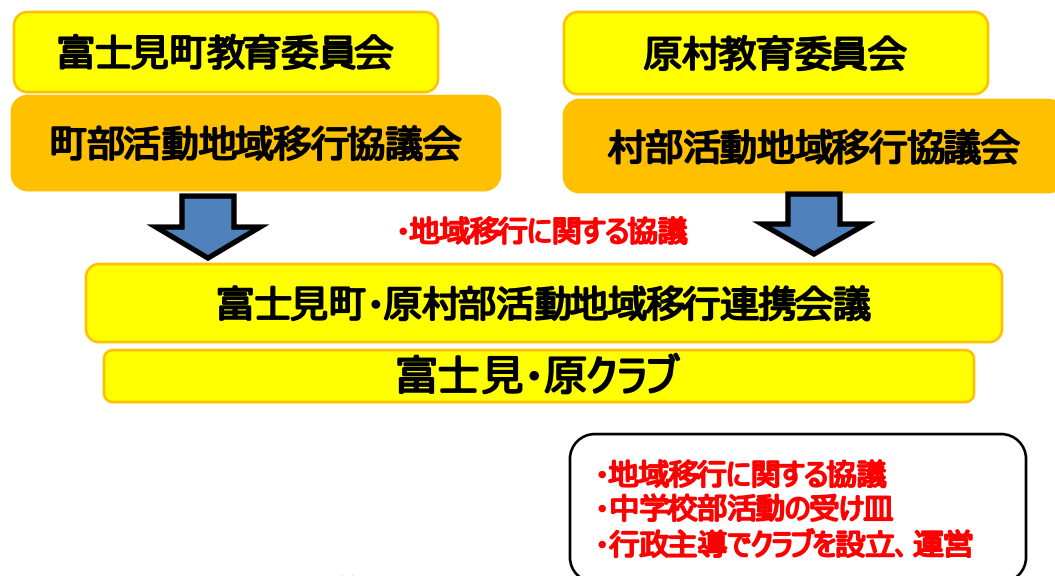
保護者や地域への地域移行や地域連携の認識については、長年にわたる部活動に対して、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒や保護者、地域住民に根付いている。

今後は、地域移行にあたって部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域クラブ活動への移行推進にあたって、学校の教職員以外の地域内の指導者の発掘や確保も同時に進めていかなければならない。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎富士見町教育委員会

- ・生涯学習課：部活動改革の主幹、学校との連絡調整、地域文化活動の環境整備

◎原村教育委員会

- ・生涯学習課：部活動改革の主幹、学校との連絡調整、地域文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・財政課：予算措置

年間の事業スケジュール

- 令和6年 5月 種目別保護者説明会の開催
- 令和6年 6月 第1回富士見町協議会の開催
保護者アンケートの実施
- 令和6年 7月 第1回原村協議会の開催
第1回富士見町・原村連携会議の開催
- 令和6年 8月 教職員説明会の開催
- 令和6年 9月 児童・生徒アンケートの実施
第2回富士見町協議会、原村協議会の開催
第2回富士見町・原村連携会議の開催
- 令和6年10月 保護者説明会の開催
種目別保護者説明会の開催
- 令和6年11月 富士見町・原村指導者リストの作成
児童・生徒説明会の開催
合唱クラブ・科学クラブの活動開始
第3回富士見町協議会、原村協議会の開催
第3回富士見町・原村連携会議の開催
- 令和6年12月 児童・生徒説明会の開催
- 令和7年 1月 野球クラブ・サッカークラブの活動開始
第4回富士見町協議会、原村協議会の開催
第4回富士見町・原村連携会議の開催
- 令和7年 3月 第5回富士見町協議会、原村協議会の開催
第5回富士見町・原村連携会議の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	6 人	全体の運営スタッフ数	19 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
富士見原サッカークラブ （仮称）	富士見町・原村 部活動 地域移行連携 会議	サッカー	月 4 回／ 週 1 回	休日 9:00 ～ 12:00	2年：6人 1年：3人	令和7年 1月18日 ～	富士見中学校校庭 富士見町体育館 原村体育館	3 人	19 人 （内、兼務19人）	月会費 0 円 ／ 年会費 0 円	中体連 ：部活動
富士見原野球クラブ （仮称）	富士見町・原村 部活動 地域移行連携 会議	野球	月 4～8回／ 週 1～2回	休日 9:00 ～ 12:00	2年：2人 1年：9人	令和7年 1月11日 ～	富士見中学校校庭 富士見町体育館 原村体育館	3 人	19 人 （内、兼務19人）	月会費 0 円 ／ 年会費 0 円	中体連 ：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- サッカークラブ：フットサル練習試合
- 野球クラブ：野球連盟主催大会参加予定

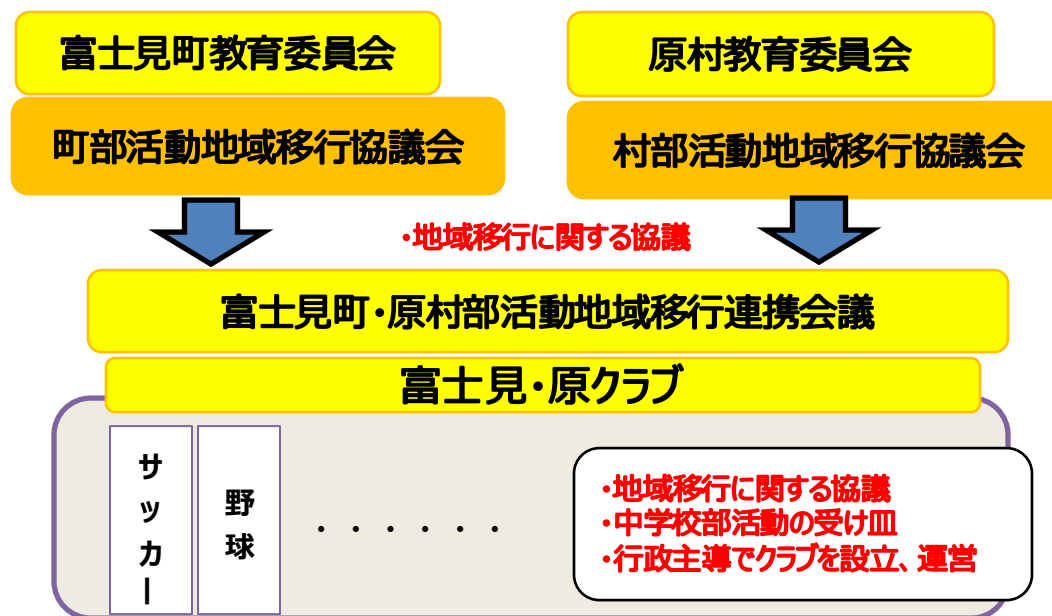
2.実証内容と成果

主な取組例

●富士見原クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球
運営団体名	富士見原クラブ
期間と日数	サッカー：令和7年1月18日～令和7年3月31日 月4回程度 野球：令和7年1月11日～令和7年3月31日 月6回程度
指導者の主な属性	地域指導者、中学校教員
活動場所	富士見中学校校庭・富士見町体育館 原村社会体育館
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：0円 野球：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 運営事務局
役割：運営における管理者として、運営全般の事務処理等を行う
- 統括コーディネーター 1名
役割：活動において、学校や生徒・保護者、関係諸団体との連携を行う
- 地域クラブ指導者 2～3名
役割：活動における生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域統括コーディネーターを1名配置し、小中学校・関係団体・町村等との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や地域指導者の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

○各町村の協議会や町村連携会議で各事業について協議する中で、様々な立場での視点から助言を仰ぎながら、円滑な推進ができるように体制作りを進めた。

○総括コーディネーターを配置したことにより、各小中学校や関係団体等との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○スポーツ協会やPTA等との連携を図ることにより、運営団体や実施団体と小中学校との連絡調整等を行うことができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【統括コーディネーター】

- ・各クラブを巡回し、課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・連携会議の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた
- ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- ・地域クラブ指導者の確保が難しい。スポーツ協会に協力を仰ぎ、地域指導者の発掘を進めていく。また、県の指導者リストから関係する指導者に依頼する。
- ・財源確保に向けて、企業協賛や賛助会員を募っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・令和6年10月にスポーツ協会の協力を仰ぎ、指導者リストの作成を進め、地域指導者の確保に努める。
- ・地域指導者に対して、指導力向上のための研修会への参加を促す。

指導者リストの人数

10名

指導者リスト種目別人数

柔道	1名
サッカー	3名
野球	3名
スケート	3名

登録者属性

職業

・教員 2名

・自営 7名

・その他 1名

指導者リストをどうやって知ったか

・スポーツ協会からの照会

種目

・柔道

・サッカー

・野球

・スケート

資格有無

・サッカー

指導者資格

審判員資格

取組の成果

- ・地域クラブ指導者として、6名招聘した。
- ・指導者研修会に、2名の参加があった。
- ・サッカークラブの地域クラブ指導者を確保することにより、これまで専門外であった教員による指導が、専門的な指導をすることができるようになった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【スポーツ・文化芸術活動指導者研修会】

・対象：学校設置者、学校関係者、部活動指導員、外部指導者、地域クラブ（スポーツ・文化芸術）活動指導者、地域クラブ活動指導者に関心のある人、スポーツ・文化芸術活動関係者等

・目的：スポーツ・文化芸術活動に対する指導の在り方や、ハラスメントの根絶と事故を未然に防ぐための安全な指導方法等について理解を深め、指導者としての資質の向上を図る。

・研修内容：講演会・グループワーク

講師：三枝 大地さん（日本バレーボール協会コーチ）

演題：目標達成と子どもと指導者のマインドセット

～子どもが次の一步を踏み出す支援～

指導者研修の参加実績

- ・開催日時：令和7年1月18日(土) 14:00～16:00
- ・開催方法：現地参集とオンラインによるハイブリッド研修
- ・参加人数：2人

受講者の声

【参加した地域クラブ指導者の声】

「今後のクラブ活動の指導に向けて、大変参考になった。」

「研修会で学んだ内容を、クラブ指導に活かしていきたい。」

今後の課題と対応方針

○実証事業に参加する地域クラブで指導する指導者は、本研修会を必須とした。

○スポーツ・文化芸術活動の指導者共通の研修であったが、文化芸術活動の指導者にとっては、スポーツに重きを置いた研修であったと感じた。

○今後は、本クラブ独自による指導者研修会を計画していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○小中学校と連携して進めていくために、各校長と連絡を密にして共通理解を図った。

○各町村のスポーツ協会や文化協会から、地域クラブ指導員を募った。

取組の成果

○小中学校校長と連携して、学校の協力を求めることで、小中学校の児童生徒・保護者への事前周知やアンケート調査を実施するだけでなく、児童生徒や保護者への説明会を実施することによって、活動の周知をする機会を得た。

○富士見町・原村部活動地域移行連携会議で作成した指導者リスト募集の際に、富士見町スポーツ協会・文化協会、原村スポーツ協会・文化協会への協力を仰いで、地域クラブ指導者を募ることができた。

○モデル事業の種目選定の際に、八ヶ岳総合スポーツクラブのサッカークラブ指導員の協力をいただき、モデル事業としてサッカークラブを立ち上げることができた。

バス等の運行実績

・令和6年度実績なし

バス等の運航経費・収入

・令和6年度実績なし

今後の課題と対応方針

・スポーツ協会や文化協会、競技団体・地域スポーツクラブ・民間事業者等、多種多様な団体に参画してもらう必要がある。更なる連携強化を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○各種目の現状を踏まえ、富士見町、原村の広域連携が進められる種目から地域移行につなげた。

○地域指導者の発掘については、富士見町、原村のスポーツ協会への協力を仰ぎ、指導者リストを作成した。また、県指導者リストから、該当する指導者とのマッチングを進めた。

各自治体の役割

○富士見町教育委員会

- ・地域クラブ運営、予算管理
- ・関係機関との連絡、調整
- ・理解促進に向けての広報
- ・地域指導への謝金等の事務処理

○原村教育委員会

同上

※予算については生徒比で算出。

移動手段

○休日活動のため、保護者送迎。

事務局運営の方法

○富士見町教育委員会にクラブ事務局を設置。

○統括コーディネーターが関係諸団体等との連絡調整を実施。

○予算については、生徒比で算出。

取組の成果

○地域クラブ活動に参加した生徒は、20名であった。参加したいすべての生徒を受け入れた。

○部員数の減少により、チーム練習が十分にできない状況であった。富士見原クラブとして2つの中学校が一つのクラブになることによって、チームとしての活動ができるようになった。

今後の課題と対応方針

○サッカー部、野球部以外の部活動については、令和8年度末までに、休日の地域クラブ活動へ完全移行する。

○平日の部活動との連携が課題である。今後、学校と指導者の連絡を密にしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

本クラブでは、サッカークラブと野球クラブを立ち上げた。この2つのクラブを立ち上げた経緯は、サッカー部・野球部ともに、部員数の減少に伴い、単独の中学校ではチームが組めない状況にあった。そのため、近隣中学校である富士見中学校と原中学校が合同で練習や大会に出場する機会が増加した。その受け皿を作るためにこのクラブを立ち上げた。

活動の詳細

参加人数	サッカークラブ 9 人	指導者数	3 人	参加人数	野球クラブ 11 人	指導者数	3 人
属性	指導者：地域クラブ指導者			属性	指導者：教員（兼職兼業）、地域クラブ指導者		
具体的な内容	活動日：土曜日又は日曜日 活動時間：9:00～12:00 活動場所：原村社会体育館 移動手段：保護者送迎 活動内容：全体練習			具体的な内容	活動日：土曜日または日曜日 活動時間：9:00～12:00 活動場所：富士見町体育館 原村社会体育館 移動手段：保護者送迎 活動内容：全体練習		
子供の声	- サッカー専門の指導者に指導によって、より細かい面でのサッカー指導を受けることができた。 - 他校の生徒との活動を通して、交流を深めることができた。			子供の声	- 地域クラブ指導者として、専門的な指導を受けることによって、わかりやすく練習することができた。 - 今までは、自分の中学校の仲間との練習だったが、他の中学校と練習することによって、人間関係を広めることができた。		
関係者の声	サッカー指導は経験がなかったが、地域指導者による専門的な指導により、働き方改革につながった。（兼職兼業教員）			関係者の声	野球専門の地域指導者に細かい指導をしていただき、ありがたい。（兼職兼業教員）		
運営経費	・スポーツ安全保険料：800円・生徒1,850円・指導者 ・生徒保護者連絡アプリ：990円			運営経費	・スポーツ安全保険料：800円・生徒1,850円・指導者 ・生徒保護者連絡アプリ：990円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- ・野球部、サッカー部ともに、それぞれの中学校単独ではチームが組めない状況の中、町村が連携してクラブ化したことにより、チームを組むことができた。また、活動内容については、これまでの個人練習からチーム練習として取り組むことができるようになった。
- ・教員の働き方改革の観点から、野球部やサッカー部顧問の中に専門外の教員が担当しているケースがあり、部活動指導に対する負担が多かった。しかし、クラブ化することにより専門の地域指導者の指導となり、顧問の時間的、精神的な負担が軽減された。また、生徒の立場からも、専門の指導者から指導を受けることにより、専門的に活動をすることができるようになり、技能の向上・習得に繋げることができた。

今後の課題と対応方針

- ・平日は部活動、休日は地域クラブ活動となり、平日と休日の指導者が異なる状況となった。子どもたちが、それぞれの指導に対して混乱をしないように、部活動顧問と地域クラブ指導者との連携を密にしながら推進していきたい。
- ・教員の働き方改革という視点から、令和6年度は2名の教員が兼職兼業で指導をしている。本来の部活動地域移行の目的からすると、教員による兼職兼業は望ましくない。今後は、様々な方法で地域指導者を募り、指導者の発掘・確保に努めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブ運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行っていく必要があるが、今年度クラブの立ち上げが1月になった都合上、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的バランスについての検証は次年度以降行いたい。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・システム整備に係る費用
- ・ホームページ構築費用
- ・事務用品

■ランニングコストの分析

- ・会場借用料
- ・指導者謝金
- ・消耗品費
- ・大会参加費、登録費
- ・連絡アプリ使用料

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

次年度以降検討

次年度以降検討する。

収支バランス

次年度以降検討

今年度は実証事業と町村の支出によりクラブ活動を実施。次年度以降、負担割合等を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を減らすことや、生徒の活動の利便性を確保するために、学校施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行った。

○富士見中学校、原中学校と連携をし、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

○運営主体と富士見中学校、原中学校と連携をし、共通理解を進めていくことで運営主体と学校のつながりを深めた。まずは休日の移行ということで、顧問の先生とクラブの指導員も連携しながら活動を開始した。

○クラブ活動においても各中学校の校庭を利用し活動することを前提にクラブ化を進めてきた。サッカーと野球がクラブ化したのが冬季期間ということで、各中学校の校庭や町村内のグラウンド施設が使用できないため、サッカークラブは、富士見町体育館・原村社会体育館、野球クラブは富士見町体育館、原村社会体育館を利用した活動となった。

今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に部活動が行われていることもあるので、引き続き、学校や教育委員会に部活動と実証事業の活動が競合しないよう、事業趣旨の理解等を深める。

○部活動の地域クラブ活動への移行に伴い、地域クラブ活動の拠点となる学校施設や社会施設を利用しやすい環境を整えるため、学校施設や社会施設の利用調整に関わる業務を運営主体に委託する方向で進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○休日完全移行後の平日移行を見据えた取り組みを推進する観点から、休日だけではなく、平日も含めた地域クラブ活動への移行に向けた課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

取組の成果

○サッカークラブは、休日は土曜日・日曜日のいずれかの1日3時間以内の活動とした。平日は従来通りの部活動として、部活動顧問の指導による活動とした。

○野球クラブは、休日のみの活動として、土曜日、日曜日のいずれかの日、もしくは土曜日、日曜日両日の活動とした。いずれも1日3時間以内の活動とした。また、平日は従来通りの部活動とし、部活動顧問の指導による活動とした。

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性
地域指導者、中学校教員

・配置の工夫
地域総合スポーツクラブの指導者や地域の指導者を地域クラブ指導員として招聘し配置した。また、指導を希望する教員について、兼職兼業として地域クラブ指導員として配置した。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○生徒保護者連絡アプリを活用して、出欠席の確認や、活動日時、活動内容等の共通理解を図った。

○今年度は地域クラブの指導者として教職員の参加もあり、クラブ指導員と連携しながら休日のクラブ活動、平日の部活動ともに一貫した指導を行った。

今後の課題と対応方針

○複数名による指導者の確保が課題となった。

⇒長野県や富士見町原村の指導者リストを活用したり、富士見町原村のスポーツ協会と協力をしたりして、引き続き指導者の確保に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 例) イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

町村のスポーツ協会の協力を得て、各協会の指導者に地域クラブ指導者の募集をした。また、県の指導者リストを活用して、本クラブに該当する指導者の発掘をした。

県の指導者研修会に、地域クラブ指導者に参加を促した。

取組の成果（イ）

富士見町・原村のスポーツ協会を通じて、地域クラブ指導者を募ったところ、4名の申請があった。また、県指導者リストから、本クラブに該当する指導者を照会したところ、1月現在で該当者はなかった。

県の指導者研修会に、本クラブから2名が参加した。受講者からは、「早速今後の指導に活かしていきたい」という声が聞かれた。

取組事項（ウ）

関係団体・分野との連携強化については、町村の協議会や連携会議を2ヶ月に1回、年5回開催して、町村協議会の委員として、また、町村連携会議の委員として、本クラブの運営に対する意見要望等をいただきながら、各関係諸機関との連携を深めている。

取組の成果（ウ）

町村協議会や連携会議で、進捗状況や推進計画を報告・提案していく中で、各関係団体の委員から、それぞれの立場からの建設的な意見要望をいただきながら、部活動地域移行を町村全体で進めていこうという機運が高まっている。今後も多くの意見を真摯に受け止めながら、円滑な運営につなげていきたい。

今後の課題と対応方針

地域指導者の確保については、引き続き、町村のスポーツ協会とタイアップしたり、地域に地域クラブ指導者募集の案内をしたりしながら、指導者の

発掘を進めていきたい。また、指導者の質の保障の観点からは、県の研修会への参加を促したり、町村独自の研修会を計画していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・令和6年度を総括すると、年度当初から、協議会設立に向けた準備委員会を立ち上げ、7月には、富士見町・原村の協議会を設置、さらに富士見町・原村連携会議を立ち上げた。8月以降、協議会・連携会議を2ヶ月に1回開催し、協議する中で様々な意見・要望等を基に本事業を推進してきた。また、児童生徒・保護者アンケートの実施、児童生徒・教職員・保護者説明会により部活動地域移行の周知を進め、児童生徒や保護者、教職員の意見を取り入れながら、子どもたちのスポーツ文化芸術活動が途切れることなく継続していける環境づくりを推進した。

・児童生徒・保護者・教職員への説明会にあたっては、部活動の地域移行についての理解に温度差があることを痛感した。特に、今後当事者となる児童については、部活動自体の理解が進んでいない中で、地域移行に向けての周知をしていくのは困難を極めた。

・部活動地域移行の2大課題である「指導者の確保」と「財源の確保」については、本町村独自に指導者リストを作成したり、地元企業への協賛を募ったりするなどの取り組みを進めた。

●成果の評価

- ・各町村協議会や連携会議を定期的で開催してきたことは、各委員が本事業の進捗状況や推進計画等を共通理解したうえで運営を推進することにつながり、大変有効であった。
- ・各種アンケート実施により、当事者である児童生徒・保護者の意見や要望等を知ることができ、部活動の地域移行を進めるうえで、貴重なデータとして今後の運営に活かすことができた。
- ・各種説明会を実施していく中で、年度当初は、部活動の地域移行に対する理解が進まない状況であったが、説明会を重ねるごとに徐々に共通理解をすることができた。
- ・指導者確保の観点で、本町村のスポーツ協会に協力を仰ぐことにより、本町村独自の指導者リストを作成を進めることができた。

●今後に向けて

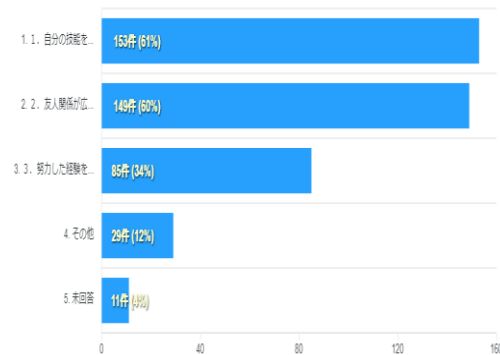
- ・各町村協議会や連携会議を定期的で開催して、各委員の意見を集約したうえで、運営を進めていきたい。
- ・指導者の確保が進まないことには、部活動の地域移行も進まない。引き続き、本町村の指導者リストのバージョンアップに努め、更に県の指導者リストの活用を進めていく中で、指導者の発掘・確保につなげていきたい。
- ・令和6年度は、国の実証事業による補助金を活用し、受益者負担を求めなかったが、持続可能な運営を考慮して、令和7年度からは受益者負担による運営を進めていく。

2.実証内容と成果②

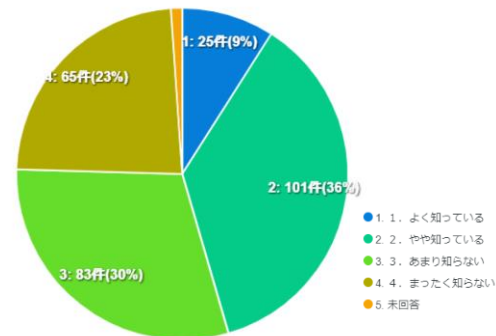
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

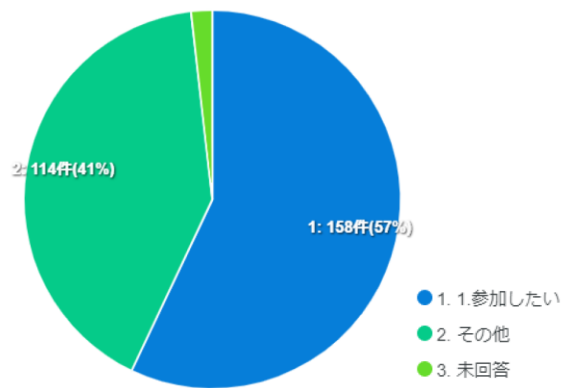
Q.部活動に取り組んでよかったことは何ですか？



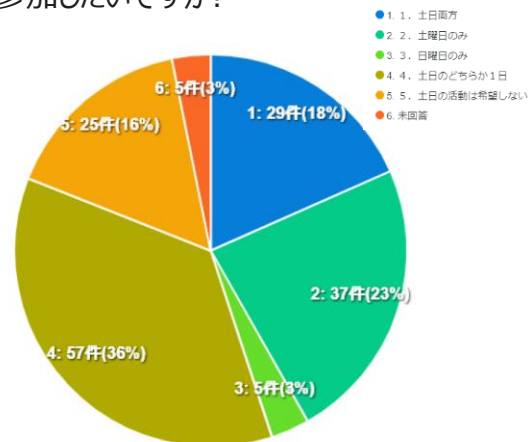
Q.国は、休日の部活動を地域クラブ活動への移行を推進しています。そのことについて知っていますか？



Q.富士見町と原村で連携した地域クラブ活動に参加したいですか？



Q.休日の地域クラブ活動に週に何回参加したいですか？



●参加者の声

中学1年生

○ランニングにより、体力向上ややり抜く力を身につける。自分の体力がどれほどか分かった。

指導者

○最初にサッカーに対する考え方や心がけてほしいことなどを伝えてから練習に入った。練習時間は3時間あったが、最後まで頑張ってやっていた。

指導者

○人数が少なく、練習の盛り上がりに欠けていたが、その中でも個々の課題にはしっかりと取り組んでいた。

指導者

○個々のレベルは違うが、自分ができることを理解しているので、チームとしては面白い。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

○11月から12月に、小学校5、6年生、中学1、2年生を対象に部活動地域移行説明会を実施した。

○9月から10月に、小学校5、6年生、中学1、2年生を対象とした「部活動の地域クラブ活動への移行に関するアンケート」を実施した。

中学校の部活動が地域クラブ活動に移行した後の「休日」のスポーツや文化活動について、1日の活動時間はどのくらいを希望しますか。

小・中学生、保護者様 地域の皆様

中学校の部活動を 休日から段階的に 地域クラブ活動に移行します

「第4次長野県教育振興基本計画」における以下の「施策の柱」の具現化を図ります

- 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる
- 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる

長野県教育委員会は、新たな地域クラブ活動を通して、以下の姿を目指します

- ◆ 地域の実情や願いに応じたスポーツ・文化芸術活動を充実
- ◆ 子どもたちの多様なニーズに応じた活動機会の創出
- ◆ 他校の生徒との交流による社会性の伸長
- ◆ 多世代交流機会の増加による地域コミュニティの強化
- ◆ クラブ単位による各種大会・競技会等への参加
- ◆ 教員の働き方改革を推進し、地域の学校教育の質の向上

■ 部活動の地域移行って？
学校部活動を地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動へと移行していくものです。
学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。
(スポーツ庁 Web広域マガジン DEPORTARE 数字で見るスポーツの未来 #12 (2023年3月29日) 参考)

本県の「部活動地域移行」に関わる会議資料等はこちら
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/chikiikou.html



【スポーツ関係】
スポーツ課
電話 026-235-7445
FAX 026-234-5169
Email sports@pref.nagano.lg.jp



【地域クラブ関係】
お問合せ先
文化・芸術課
電話 026-235-7445
FAX 026-235-7434
Email kyoiku@pref.nagano.lg.jp

ALL信州で支える

「地域クラブ活動」って何？

(Q1) 県内中学校の部活動における課題は？

- 生徒数の減少により、学校単独での活動や大会参加が難しい
- 施設や休日に、生徒の興味・関心のある部活動の開催が難しい
- 専門的知識が60%以上、専門的な指導ができる、教員の負担も高まっている

(Q2) 地域クラブ活動の目指すところは？

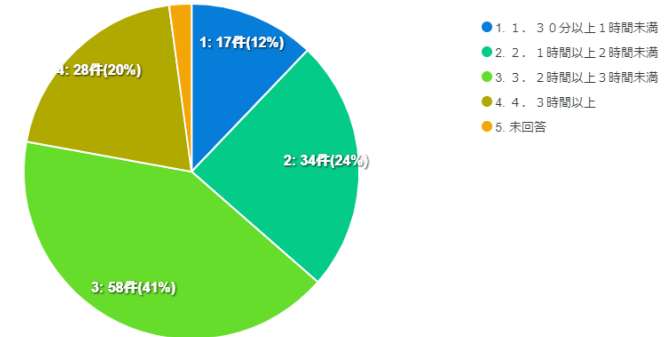
- 「地域の子どもは、学校を含めた地域で育てる」の理念のもと、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の拠点を地域で築けるように
- 生徒の多様なニーズに応じた活動を地域において安定的に行えるように
- 地域において多世代と関わる機会が増え、地域活性化の一助になるように
- 教員の働き方改革が進み、教科指導等の充実が図られ、学校教育の質が向上するように
- 研修等によって指導者の資質向上に努め、安全・安心なクラブ活動が展開できるように

(Q3) 県の方針（移行時期や平日の活動）は？

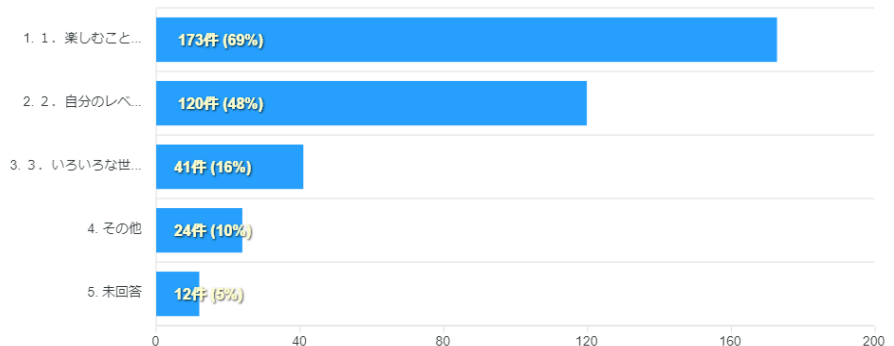
- 原則として、休日・平日ともに全ての中学校部活動を新たな地域クラブ活動に移行します
- 国が示す令和7年度までの改革推進期に、新たな地域クラブ活動の環境整備を鋭意進め、可能な限り早期の実現を目指しつつ、地域の実情に応じ、令和8年度末を目途に休日の中学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指します
- 平日はできるところから移行を進め、難しい場合でも生徒の活動を保障しつつ、教員の勤務時間外の部活動指導を減らす工夫を検討・実施します

(Q4) 地域や保護者にできることは？

- 地域クラブ活動の指導者、又は協力者として「信州地域クラブ活動指導者リスト」への登録にご協力をお願いします。
※「信州地域クラブ活動指導者リスト」への募集案内はこちらから
<https://homeofnagano.com/csp251w61>
- 保護者の皆様方には、クラブ運営に係る会費や練習会場までの送迎等のご負担をおかけする場合がございます。各自自治会に会費の低廉化を求めるとともに、支援のあり方について研究してまいります



地域クラブ活動に望むことは何ですか。



【アンケート結果】

出典:部活動の地域クラブ活動への移行に関するアンケート（実施期間令和6年9月～10月の結果抜粋）

【児童・生徒への部活動から地域クラブ活動への移行啓発リーフレット配付】

出典:部活動から地域クラブ活動移行に関するリーフレット
(長野県教育委員会保健厚生課、学びの改革支援課資料抜粋)

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【キャッチボール（野球クラブ）】



【フィジカルトレーニング（野球クラブ）】



【リフティング練習（サッカークラブ）】



【ウォーミングアップ（サッカークラブ）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

協議会設置、
連携会議設置
検討開始

学校・スポーツ
協会等、関係
機関との調整

児童生徒、保
護者アンケート
実施

児童、生徒、保
護者への説明

地域クラブ活動
の開始

令和7年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

学校、スポーツ協会
町村部局、町村教委、統括コーディネーター

●経過

令和6年度より準備委員会を設置し、自治体を主体として新たな地域クラブ体制を構築し、令和8年度末までに休日の部活動を地域クラブ活動に移行する推進計画及び地域クラブの活動方針を策定した。富士見町・原村にそれぞれ運営団体と行政、コーディネーター等で組織する協議会を設置し、富士見町・原村連携会議でクラブ活動の運営マニュアル等の作成を進めた。

●実施内容

児童・生徒、保護者アンケートを実施し、部活動地域移行に向けての意識調査を行った。また、児童・生徒、保護者・教職員に向けて説明会を実施した。モデル事業の種目(サッカー・野球)については、令和7年1月より休日の地域クラブ活動への移行を開始した。

●実施にあたって生じた課題

クラブ地域活動を進めていく中で、活動場所や使用する用器具についての課題が生じてきた。サッカークラブ・野球クラブともに、発足当初は各自治体の体育館を借用して活動している。施設使用料等は、各自治体の減免措置により、無償で借用できている。しかし、ボールや用器具については、各中学校の備品を借用せざるを得ない状況である。学校外での活動においては、学校の備品を活動場所である各自治体体育館に運搬・準備しなければならない。用器具の確保が今後の検討課題である。

●今後の展開

令和7年度からは、地域クラブ指導者が確保できた部活動において休日の地域クラブ活動を実施する方向である。また、持続可能な地域クラブ活動の運営を推進していくために、令和6年度は国の実証事業による補助金で賄っていた運営費用を、保険料や連絡アプリ使用料等の費用について、受益者負担を進めていく。指導者の発掘・確保については、町村のスポーツ協会等を通じて、今後も募集を進めていく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【～令和 6 年 4 月】

- 富士見町 原村 事務担当者会議
- 広域連携協議会準備会の開催（各町村）
- 先進地視察

【～ 令和 7 年 3 月】

- 地域スポーツクラブ活動体制整備事業を活用し地域移行の推進（移行可能種目から随時）
- 富士見原クラブ（仮称）の設立に向けた調整
- 富士見原クラブ（仮称）の運営に関する調整
- 富士見原クラブ（仮称）の設立

【令和 8 年度】

- 休日の部活動を地域クラブへ移行
- 指導者の発掘・確保
- クラブの安定運営・独立に関する協議

- アンケート調査の実施（児童・生徒・保護者）
- 説明会の実施（教職員・児童・生徒・保護者）

○広域連携の協定書の締結

○広域連携会議の設立

【～ 令和 6 年 1 2 月】

○整備事業を通して見えてきた課題の検証

○各種目の移行に向けた調整

○部活動・富士見原クラブ（仮称）の平日・休日同時運用

○指導者の発掘・確保

○クラブの安定運営に関する協議

【令和 7 年度】